

ルールメイキング 教員ガイド

目次

はじめに	p.1
■ 『ルールメイキング教員ガイド』について	p.1
■ 教材の全体像	p.1
■ 『ルールメイキング教員ガイド』の使い方	p.2
■ STEAMライブラリー動画教材の使い方	p.3-4
・ 入門編の動画教材について	
・ 実践編の動画教材について	
・ 番外編の動画教材について	
みんなのルールメイキング宣言	p.5
ルールメイキングの事前準備	p.6
① 入門編動画をみて対話する～ルールメイキングへの意欲を高める～	p.7
② 実施目的を整理し、取り組み意義を周知する	
(1) 実施目的と計画を整理する	p.8-9
(2) ルールメイキングの実施目的を教員に伝える	p.10-11
③ プロジェクトキックオフ	
(1) 校内検討のメンバー募集	p.12
(2) チームビルディング 生徒・教員の関係づくり	p.13
(3) 1年間の見通しを持つ（実践編①の動画教材解説）	p.14
実践編（Ⅰ）ルールメイキングをはじめよう！	p.15
Step 1 ルールについての基本認識を形成する	p.16
【活動例】 実践編②の動画を活用したワークショップ事例	p.17
Step 2 対話についての基本認識を形成する	p.18-19
【活動例】 実践編③の動画を活用したワークショップ事例	p.20
Step 3 広く検討すべきルールを見つける	p.21-22
Step 4 見直したいルールを決める	p.23-24



実践編（Ⅱ）ルールメイキングをひろげよう！・・・・・・・・・・・・・・・・ p.25

- 【動画教材解説】 実践編④の動画でわかること/活用シーン・・・・・・・・ p.26
- 【活動例】 実践編④の動画を活用したワークショップ事例・・・・・・・・ p.27
- Step 5 調査計画を立てる・・・・・・・・ p.28
- Step 6 調査を実施して、データをまとめる・・・・・・・・ p.29
- 【活動例】 様々な調査方法の例・・・・・・・・ p.30

実践編（Ⅲ）新しいルールを提案しよう！・・・・・・・・・・・・・・・・ p.31

- 【動画教材解説】 実践編⑤の動画でわかること/活用シーン・・・・・・・・ p.32
- Step 7 新ルール（解決策）をつくる・・・・・・・・ p.33
- Step 8 新ルール（解決策）を提案する・・・・・・・・ p.34-35
- Step 9 新ルールの運用に向けて準備をする・・・・・・・・ p.36
- Step 10 プロジェクト全体の振り返りをする・・・・・・・・ p.37-38
- 【発展的な学習につなげる】 番外編③の動画でわかること/活用シーン・・・・・・・・ p.39

ルールメイキングQ&A 先生のお悩み相談室・・・・・・・・ p.40

- ①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える・・・・・・・・ p.41-42
- 【活動例】 番外編①②の動画を題材に、対話をする・・・・・・・・ p.43-47
- 【活動例】 教員コアメンバー 対話ワークショップ・・・・・・・・ p.48
- 【活動例】 教員全体 対話ワークショップ・・・・・・・・ p.49
- ②保護者の方・地域の方と一緒に、校則やルールメイキングについて考える・・・・・・・・ p.50
- ③ルールメイキング振り返りチェックリスト・・・・・・・・ p.51-52
- ルールメイキングパートナーになりませんか？・・・・・・・・ p.53

巻末ページ・・・・・・・・ p.54

はじめに

■『ルールメイキング教員ガイド』について

こちらの教材は、学校でルールメイキング（生徒主体での校則の対話的な見直し）をこれから始めたい、もしくは、さらに深めたいと思っている先生方に向けたガイドブックです。学校現場でルールメイキングを行ううえで大切にしたい観点や、全国の学校のルールメイキング事例の紹介、ワークショップなどの活動アイデア、先生向けのQ&A集などを掲載しています。

経済産業省の「未来の教室」が運営する新しい学びのプラットフォーム「STEAMライブラリー」(<https://www.steam-library.go.jp/>)に、ルールメイキングの動画教材が掲載されていますので、そちらの動画教材と併せて、ご活用ください。

■教材の全体像

みんなのルールメイキングプロジェクトの関連教材は、
①「STEAMライブラリー」のWEBサイトから視聴できる動画教材、②教員ガイド（本誌）の2点で構成されています。教員ガイドに動画教材や活動例なども掲載しておりますので、併せてご活用ください。

この動画、つかえるかも！



みんなのルールメイキングプロジェクトとは？

「みんなのルールメイキングプロジェクト」は、学校の校則・ルールに対して生徒が主体となり、先生・保護者などの関係者との対話を重ね、納得解をつくることを通して、課題発見・合意形成・意思決定をする力を高めていく教育プログラムです。認定NPO法人カタリバが事務局となり、学校や生徒をはじめとした本取り組みに賛同してくださる関係者・関係機関の協力でつくられています。

本プロジェクトは2019年にスタートし、全国の学校と連携して、校則を見直す取り組みを広げています。経済産業省「未来の教室」実証事業に採択され実施しています。



RULE MAKING

特定非営利活動法人カタリバとは

どんな環境に生まれ育った10代も、未来を自らつくりだす意欲と創造性を育める社会を目指し、2001年から活動する教育NPOです。

高校への出張授業プログラムから始まり、2011年の東日本大震災以降は子どもたちに学びの場と居場所を提供するなど、社会の変化に応じてさまざまな教育活動に取り組んでいます。

未来は、つくれる。

KATARIBA
Shape the Future

■『ルールメイキング教員ガイド』の使い方

このガイドブックは、全体の構成として【事前準備編】【実践編】【先生向けQ&A編】という大きく3つの章に分かれています。どこから読んででもルールメイキングを進めるうえでのヒントを得られる内容になっています。学校や先生方が抱えている課題、ルールメイキングの進み具合などは、それぞれの学校によって異なっています。まずは教員ガイドの中から「ここは、自分の学校でも活用できそう！」という部分を見つけて、読んでみてください。

■お悩みパターン別！教員ガイドの使い方

●自分の学校で校則・ルールの見直しに取り組んでみたいのですが、周りの先生方から理解が得られず、なかなか始められません…。

→まずは「ルールメイキングQ&A (p.40～)」へ！



▼こんな先生方のお悩みに答えます

- 校則を見直すことについて、管理職の教員や、生活指導部の教員から同意を得られていない
- 学校全体で、この取り組みへの理解を広げていきたい
- まずは個人でできることを探してみたい

●学校内で、本格的に校則・ルールの見直しをおこなう必要性が高まってきています。一体どんなことから始めればいいのでしょうか？

→まずは「ルールメイキングの事前準備 (p.6～)」へ！



▼こんな先生方のお悩みに答えます

- 校則を見直すことについて、管理職の教員や、生活指導部の教員から同意を得られており、これから学校全体で校則・ルール見直しの活動を始めることになった
- 教員主導ではなく、生徒主体の校則・ルールの見直しの活動に取り組んでみたい
- 1年間、活動を進めていくためのイメージを持ちたい

●すでに校則・ルールの見直しに取り組んでいるものの、「このままの進め方でいいのかな？」と悩んでいます…。ルールメイキングの活動をさらに深めるための方法や観点について知りたいです！ →【実践編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】(p.15～)へ！



▼こんな先生方のお悩みに答えます

- すでに学校全体で、校則・ルールの見直しを実施している、もしくは見直しを行ったことがある
- 生徒主体の校則・ルールの見直しの活動を通じて生徒自身の学びに繋げていくために、アイデア実践事例などを知りたい
- 校則・ルールの見直しのプロセスについて、このままの進め方でいいのか迷っている

■STEAMライブラリー動画教材の使い方

「STEAMライブラリー」のサイト上に掲載されている動画教材は、合計11本です。
主に生徒向けの【入門編】【実践編】、そして主に先生向けの【番外編】という大きく3つのセクションに分かれています。こちらも教員ガイドと同じく、どこからご視聴いただいても、ルールメイキングのヒントを得られる内容になっています。それぞれの用途に合わせて、動画教材をお使いください。

■入門編の動画教材について

入門編は、生徒がルールメイキングの取り組みについて知り、「自分でもやってみたい！できるかも！」と感じられるような映像コンテンツとなっています。これからルールメイキングの活動を始める学校において、生徒や先生方に向けた導入用の映像としても活用できます。

入門編①



校則・ルールって何だろう？
(約3分)

入門編②



校則・ルールは
“どうせ変わらない”のではなく、
“変えていける！”(約6分)

入門編③



身のまわり“当たり前”を
疑ってみよう(約7分)

■実践編の動画教材について

実践編は、全国のケーススタディや専門家による解説をもとに、学校でルールメイキングを進めていくためのヒントを得ることができる映像コンテンツとなっています。ルールメイキングに取り組んでいる生徒や先生方が、それぞれの活動段階に応じて、映像を活用できます。

実践編①



ルールメイキングの進め方を
知ろう(約5分)

実践編②



ルールメイキングをはじめよう
～そもそもルールとは？～
(約5分)

実践編③



ルールメイキングをはじめよう
～対話のあり方～
(約5分)

実践編④



ルールメイキングを
ひろげよう(約5分)

実践編⑤



新ルールを提案しよう
(約5分)

■ 番外編の動画教材について

番外編は、主にルールメイキングに取り組みたい先生方に向けた映像コンテンツとなっています。校則・ルールの見直しの活動に関心を持ち始めた先生方に、取り組みのヒントとなるような内容となっています。番外編③の動画は、応用編として生徒活動や授業内でも活用できます。

番外編①

番外編① "校則のあり方"を考えよう



特別対談
いまなぜ、教育現場で
ルールメイキングが必要なのか？
(約60分)

番外編②

番外編② "教師"は何をすればいい？



校則の見直しに取り進む
教師3人の体験談
ルールメイキングQ&A
先生方のお悩み相談室
(約25分)

番外編③

番外編③ "ルールを作る"意味とは？



社会で活躍するプロフェッショナルに聞く
ルールメイキングの意義
(約13分)

■ ルールメイキングの動画教材を見るには？

①まずは、STEAMライブラリーのサイトにアクセス



▲読み取り用QRコード

②キーワード検索のページで「ルールメイキング」と入力

STEAM教材を探してみよう

ルールメイキング



科目から検索する ▾

SDGsから検索する ▾

Search 🔍

③動画教材を視聴する



みんなのルールメイキング宣言

■ みんなのルールメイキング宣言とは？

校則・ルールの制定や見直しを進めるうえで大切にしたいことを、ルールメイキングに関わるすべての人が立ち帰れるような指針としてまとめたものが、「みんなのルールメイキング宣言」です。校則見直しに携わる生徒や先生、一般公募で集まった中高生有志メンバー、さまざまな専門分野の有識者らとともに約半年にわたり検討をつづけ、宣言文を完成させました。この教員ガイドでも、ページの右上の部分に、それぞれのStepに対応する形で宣言文の該当箇所を掲載しています。ぜひ、参考にしてみてください。

■ 前文

学校は、民主主義社会を支える、最も重要な土台となる場所です。

「自分たちの社会は自分たちでつくる」が民主主義社会の原則であるならば、学校もまた、「自分たちの学校は自分たちでつくる」機会を、生徒・教員・保護者などの関係当事者に十分に保障する必要があります。

我が国の教育基本法は、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」を育むことを教育の目的としています。それはすなわち、他者の自由を認めることのできる、自由で自立した市民の育成です。

この教育の「最上位目的」を達成するためにこそ、私たちはルールメイキングに取り組みます。

ルールは、一人ひとりの自由や多様性を守り、認め合うために存在するものです。立場や価値観などを異にする人たちが、互いを尊重し、対話を重ね、納得解をつくり合っていく。そんな力を身につけることは、生徒がこの社会を生きていく上でも、きわめて重要なことであると私たちは信じています。

だからこそ、校則・ルールのもとで学校生活を送る生徒自身の参画機会を保障しながら、生徒はもちろん、教員や保護者や地域の方など関係する人たちが、校則・ルールについてともに対話し、見直し続けていくことを、私たちはここに宣言します。

■ 校則・ルールの制定や見直しを進めるうえで前提にしたい3つの原則

- ①一人ひとりの尊厳を大切に。【個人の尊重】
- ②「そもそも何のための学校か」を最上位に。【最上位目的との整合性】
- ③学校は校則を公開し、その制定・改廃への生徒の参画を保障する。【公開原則と意見表明権の保証】

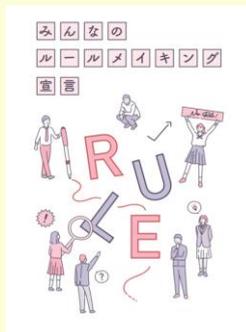
■ 校則・ルールの制定や見直しを進めるうえで大切にしたい9ヶ条

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】
- 3 「なぜ、この校則・ルールが存在するのか」を確認する【制定の根拠・背景の確認】
- 4 固定観念にとらわれない【前提の再考】
- 5 目的にかなう手段（校則・ルール）を論理的に提案する【目的合理性】
- 6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる【対話的なルールづくり】
- 7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】
- 8 できた校則は公開する【情報の公開】
- 9 一度つくった校則・ルールを見直し続ける【継続性と改定手続きの制度化】

みんなのルールメイキング公式サイトで、

「ルールメイキング宣言」の冊子が

ダウンロードできます！



読み取り用

QRコード▲

ルールメイキングの事前準備

このセクションでは、関係者が取り組みの意義を理解し、今後の活動の見通しを持ったうえで、安心して意見を言い合える下準備ができることをめざします。

ルールメイキングに実際に取り組んだ学校の例をみて感想を伝え合うところから初めても構いません。自身の学校にとって適切なやり方で活動がはじめられるように、事前準備をはじめましょう。



▲安田女子中学高等学校のルールメイキング委員会の生徒が、活動計画について話し合っている様子

目次

- ①入門編動画をみて対話する～ルールメイキングへの意欲を高める～
ルールメイキングに取り組んだ学校の例を紹介している入門編②③の動画を視聴し、率直な意見や感じたことを共有する
- ②実施目的を整理し、取り組む意義を周知する
 - (1) 実施目的と計画を整理する
 - (2) ルールメイキングの実施目的を教員へ伝える
- ③プロジェクトキックオフ
 - (1) 校則検討のメンバー募集
 - (2) チームビルディング：生徒・教員の関係づくり
 - (3) 1年間の見通しをもつ

活用できる動画教材：

- ・入門編②「校則・ルールは“どうせ変わらない”のではなく、“変えていける！”
- ・入門編③「自分のまわりの“当たり前”を疑ってみよう」
- ・実践編①「ルールメイキングの進め方を知ろう」

ルールメイキングの事前準備

①入門編動画をみて対話する

～ルールメイキングへの意欲を高める～

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

2 疑問をもった「私」からはじめろ【発議の権利】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

ルールメイキングに取り組む意欲を高めるために、動画教材入門編②③を視聴して、意見交換を行ってみましょう。

動画教材：入門編②「校則・ルールは“どうせ変わらない”のではなく、“変えていける！”」再生時間 約6分



やり直したい気持ちがある

【動画のポイント】ルールを変える経験が生徒に与える変化と成長

● どうせ変わらないじゃなくて、変えていける

校則検討委員会 中村さん

「中学生までは周りに流されてしまっていた自分を変えたかった」

● 校則検討委員会による見直し

・靴下の規定を改正 色、長さを自由に

・ツーブロックもOKに

「どうせ変わらないと思っていたが 話し合っただけで変えられたことが嬉しかった」

● 校則は考えさせるものに - 担任 小田原教員

「校則は大事だと思うが 思考力や疑問を奪うものであってほしくない」

● ルールを変える 私も変わる

「意見を言うことで みんなが聞いてくれることが驚き」



思考力や疑問を奪うものであって欲しくない

動画教材：入門編③「自分のまわりの“当たり前”を疑ってみよう」再生時間 約7分



生徒 栃木銀行さんでは髪形や服装のルールは変わりませんか？

【動画のポイント】

学校外の視点を取り入れることで得られる、多様な立場や意見への気づき

● “当たり前”を疑ってみよう

・90項目の校則

・ルールメイキング委員会での校則見直し

● “本当に髪型で就職に不利になるのだろうか？” 地元企業からの声を聞く

・栃木銀行へのヒアリング

「髪型で合否の基準はあるか？」 「銀行にも校則のようなルールはあるか？」

● 多様な視点からルールをつくる

「ただルールをゆるめればいいというだけではない」

「広い視野を大切に校則をつくっていききたい」



広い視野を大切に校則を作っていきたいと思っ

動画教材の活用方法（例）

活用例：動画を視聴して、感想を共有する

■ 場面①生徒と視聴し、一緒に考える

【放課後活動での活用／授業やLHR等での活用】

■ 場面②教員同士で視聴し、一緒に考える

【職員研修や会議での活用／身近な同僚との研修での活用】

考えたいポイント：

■ 生徒と一緒に考えたいポイント

・自校の状況との共通点・相違点はあるか？

・校則やルールは変えられると思うか？

・動画に登場する人物について、自分との共通点・相違点はあるか？

・校則やルールについて、自分たちはどんなことを“当たり前”だと思っているか？

■ 教員と一緒に考えたいポイント

・自校の状況との共通点・相違点はあるか？

・自校の校則・ルールは適切だと感じるか／自校に見直すべきルールや校則はあるか？

・自分自身は校則やルールについてどのような考え方をしているか？

・自校で校則の見直しを進めるとしたら、どのような方法が適切か？



ルールメイキングの事前準備

②実施目的を整理し、取り組む意義を周知する

(1) 実施目的と計画を整理する

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

2 疑問をもった「私」からはしめる【発議の権利】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

ルールメイキングを自分の学校で取り組むにあたり、実施する意義や育てたい力などを整理しましょう。以下の観点について整理した内容について他の先生方（管理職の先生や、生徒指導を担当する先生など）とも共有し、助言をもらえるとよいでしょう。



実施目的の整理

■ルールメイキングに取り組む意義について

①自身の学校でルールメイキングに取り組む意義は何でしょうか？

<観点：学校の教育方針、生徒の特徴（強み／課題）、学校経営の特徴（強み／課題）、地域的な特性など>

②ルールメイキングを通じて、生徒にどのような力を育てたいですか？

■校則・ルールの現状について

①見直す必要がある校則には、どのようなものがありますか？

②校則や生徒指導に対して、学校内外からどのような声が聞かれていますか？

●さっそくルールメイキングを実践したい学校・先生 → p.9へ

▼次に行うこと

- ・実践に向けて、具体的な年間計画を立てる。
- ・実践に向けての課題を整理する。

●ルールメイキングの実践に向け、学校内の協力者を増やしたい学校・先生 → p.40へ

▼次に行うこと

- ・身近な先生同士で、学校内で校則・ルールについて考える場を持つ。
- ・学校内で校則・ルールを考える研修を実施する。

ルールメイキングの事前準備

②実施目的を整理し、取り組む意義を周知する

(1) 実施目的と計画を整理する

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

ルールメイキングの実施目的を整理できたら、具体的な年間計画を考えます。

どのような活動を、どのタイミングで実施するのかを決めることで、ルールメイキングの全体イメージを持つことができます。

p.11には、安田女子中学高等学校の年間計画が事例として掲載されています。

4月	
5月	生徒会や有志など、活動の中心となる体制を決め、メンバーを募集・確定します。
6月	定期テストや行事など、ルールメイキング活動ができない時期との兼ね合いに気を付けます。
7月	
8月	夏休みなど、生徒活動が中止する期間を活用し、教員研修などを実施して教員間での理解浸透を進めます。
9月	学校内外での調査計画を立て、新ルール作成のための調査を実施します。
10月	新しい校則の提案に向け、管理職やコア教員以外へ働きかけを始めていきます。
11月	新ルールを提案する際の手続きや、踏むべき手順を確認しておきます。
12月	
1月	
2月	プロジェクトメンバーで、1年間の活動を振り返ります。
3月	次年度の実施計画を立て、学内調整を始めます。

ルールメイキングの事前準備

②実施目的を整理し、取り組む意義を周知する

(2) ルールメイキングの実施目的を教員に伝える

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

2 疑問をもった「私」からはじめろ【発議の権利】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

ルールメイキングに取り組むにあたり、校則・ルールの見直しを実施する意義について他の先生方に説明・周知しておきましょう。本活動は実施校の生徒指導方針に関与するため、教員内でも様々な異なる意見や立場があることが予想されます。しかるべき方法で早めに周知しておく、教員間での目線合わせにも十分な時間を使うことができるようになります。

◎取り組む目的や意義を伝えるときのポイント：

◆生徒に育てたい力を明確にする

校則・ルールの見直しありきではなく、教育活動として校則・ルールという題材を扱う取り組みであるということを伝えましょう。

◆教職員全員に伝わる場で周知する

職員会議など、すべての教職員が参加する場で周知することが望めます。可能であれば、質疑ができる時間も設定できるとよいでしょう。

◆誰からの発信を行うのがベストか考える

この取り組みの意義について、管理職や生徒指導を担当する教員からも発信をしてもらうことで、教員間での理解を得られやすくなります。



校則・ルールの見直しは、現在の指導方針を否定する印象を与えやすいため、相手に合わせて、関係者の納得を得やすい表現や伝え方ができるとよいでしょう

◆教員間での合意や納得を得ることにに対して不安がある場合は、p.40 ルールメイキングに取り組む先生のQ&Aを参照ください！

*動画もあわせて活用いただけます！

- 番外編①「特別対談 いまなぜ、教育現場でルールメイキングが必要なのか？」
・内容：ルールメイキングに取り組む意義に関する、教育関係者による対談
- 入門編②「校則・ルールは“どうせ変わらない”のではなく、“変えていける！”」
・内容：ルールメイキングに取り組んだ生徒・教員の変化や成長



番外編①動画

入門編②動画

■コラム：「ルールメイキング」に取り組む意義のつくり方

～「どんな学校を目指したいか」からはじまるルールメイキング～

<岩手県立大槌高等学校（普通科）>

入学者数が減少していた岩手県立大槌高等学校では、生徒にとって魅力的な学校づくりをめざす取り組みを2019年度に開始し、2020年度から校則・ルールの見直しを行っています。

同校では、まずは生徒自身がどのような学校を望むのかを聞くことから新しい学校づくりをスタートさせました。

教員も生徒に育てたい力について意見を出し合い、学校づくりの方針として①教育課程の見直し、②探究活動の推進、③生活指導の見直しという柱をたて、校則・ルールの見直しにも取り組んでいきました。

全体的な学校づくりの方針上で校則・ルール見直しが実施されたこともあり、教員から大きな反対の声が挙がることはありませんでした。

同校では「校則検討委員会」という委員会形式をとり、生徒自身が校則・ルールに対して意見を出すことができる体制を整えています。



こうあってほしい学校像について意見を出す全校ワークショップ（全校集会が行われるタイミングにあわせて実施）

（※大槌高校の生徒・先生方の声は、入門編②「校則・ルールは“どうせ変わらない”のではなく、“変えていける！”」・番外編②「ルールメイキングQ&A 先生のお悩み相談室」でも、実際にご覧いただけます）

【参考資料：ルールメイキング実践事例 (安田女子中学高等学校／広島県)】

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】
- 7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

ルールメイキングを実際に行った学校の1年間の実践例です。
安田女子中学高等学校では、以下のような流れで校則・ルールの見直しをすすめました。

活用できる動画教材：

■実践編①

ルールメイキングの進め方を知ろう



■安田女子中高の取り組みで改正された校則

- ①情報端末機器（スマートフォン）の持ち込み
- ②保護者同伴でないと出入りできない場所への立ち入り
- ③放課後の立ち寄り

◆1年間の流れ

4月
5月
6月

事前準備

- (1) 校則検討のメンバー募集
- (2) チームビルディング：生徒・教員の関係づくり
- (3) 1年間の見直しをもつ

校則見直しメンバーを募集する
キャンペーン活動を行って
仲間を集めました



7月
8月

<ルールメイキングをはじめよう！>

- Step1 ルールについての基本認識を形成する
- Step2 対話についての基本認識を形成する
- Step3 広く検討すべきルールを見つける

教員同士の目線合わせ

全教員を対象とした
研修をひらき、それ
ぞれの教員が校則や
ルールの在り方について
対話する機会を
設けました。



10月
11月

- Step4 見直したいルールを決める
- <ルールメイキングをひろげよう！>
- Step5 調査計画を立てる



見直したい項目を10項目出してから、話し合って3つに絞っていきました

12月

- Step6 調査を実施をして、データをまとめる
- <新しいルールを提案しよう！>
- Step7 解決策（新ルール）をつくる
- Step8 解決策（新ルール）を提案する

保護者や弁護士・警察の方も
対象に含めたヒアリングを実施

1月
2月
3月

- Step9 新ルールの運用に向けて準備する

新ルール承認・運用開始

学校の中で事前の調整を行った上で、
生徒による提案機会を設定

4月
5月

- Step10 プロジェクト全体を振り返る



生徒からの声：

「この校則はなくしてほしい」だけだった気持ちだが、『この校則がどうしてあるのか、まず理由が知りたい』と、校則を守ろう・知ろうという気持ちがプロジェクトメンバー以外の生徒にも出てきた。」

「プロジェクトを通して、生徒と先生方との距離が少し縮まったと思う。そして、当たり前と思っていることと決まっていることに対し、意見を持つようになったと思う。」

ルールメイキングの事前準備

③プロジェクトキックオフ

(1) 校則検討のメンバー募集

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

2 疑問をもった「私」からはじめると【発議の権利】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

ルールメイキングに取り組む生徒のチームをつくります。生徒会の活用や有志チームの立ち上げなど、いくつかの場合が考えられます。自身の学校に合う形を検討する際にご活用ください。

プロジェクトチームの作り方

①既存の枠組み（生徒会／委員会）を活用する

- メリット
 - ・既存の枠組みを使用するので、進めやすい
 - ・生徒会の発足時期に合わせてプロジェクトをスタートできる
 - ・役員改選後、継続することも可能
 - ・選挙を実施していることで、代表制が担保されている
- 進めるうえで気をつけたいポイント
 - ・役員任期中に改正まで進めようとする、時間的な余裕が少なくなる場合がある
 - ・生徒会が担当する他の業務との調整が必要



②有志メンバーを募集する

- メリット
 - ・より多くの生徒が参加できる
 - ・学校に合わせたチームの体制づくりが可能
 - ・生徒によるメンバー募集を行いやすい

- * 新しい委員会やサークル的な活動も可能
- * 生徒会に有志メンバーを加える形も可能

- 進めるうえで気をつけたいポイント
 - ・選挙を実施していないため、代表制の担保が難しい
 - ・希望人数が多い場合、活動の時間を合わせたり、メンバー間の情報共有が難しい（チーム分けをして進める、オンラインツールを活用する等の工夫が必要）



関わり方のポイント

- ルールメイキングの趣旨を正確に伝える
 - ・参加する生徒のモチベーションは様々ですが、「校則への不満に対する異議申し立てができる」という側面だけが伝わらないように注意が必要です。
 - * 「ルールを考えることを通じた、よりよい学校づくり」という側面も意識的に伝えるようにすると、前向きな意欲を持って参加を促すことができます。
- ・ルールメイキングの活動メンバー募集にあたっては、教員間での合意や取り組みへの理解を深めることも同時に行うことを心がけましょう。
- 生徒の力も借りる
 - ・メンバー募集には、教員からの声かけに加えて、生徒の力を借りることも効果的です。生徒同士で誘い合うことで、教員が気づいていない多様な視点や意見を持った生徒が参加することができる余地がうまれます。

*メンバーの意欲喚起には、以下の動画を活用いただけます！

- ・入門編①「校則・ルールって何だろう？」
- ・入門編②「校則・ルールは“どうせ変わらない”のではなく、“変えていける！”」
- ・入門編③「自分のまわりの“当たり前”を疑ってみよう」



ルールメイキングの事前準備

③プロジェクトキックオフ

(2) チームビルディング：生徒・教員の関係づくり

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

ルールメイキングを行うチームメンバーが決まったら、生徒同士・生徒と教員との関係づくり（チームビルディング）から始めましょう。

●チームビルディングを行う目的

ルールメイキング活動において、心理的に安心・安全な雰囲気の中で、率直な意見を言いやすい環境づくりはすべての活動の基盤となります。活動の場は、生徒だけでなく、教員にとっても本音の対話を行うことができる空間であることが望まれます。生徒同士の関係だけでなく、生徒と教員間の関係も視野に入れ、立場や年齢にかかわらず意見を表明できる環境づくりが大切です。

●活動のポイント

◎立場にかかわらず本音を言い合える環境をつくること

- ①生徒同士の関係づくり
- ②生徒と教員の関係づくり



チームビルディング活動例

(1) 自己紹介 4マス自己紹介

<手順>

- ・A4用紙を4つ折りにして4マスをつくり、左上のマスに呼んでほしい名前を記入する
- 残りの3マスには、自分を表すキーワードをそれぞれ1つずつ記入する
- ・1人1分ほどでお互いに共有する

ポイント：
先生も必要に応じて、参加者の一員として活動に加わっても可

(2) ルールメイキングに対する思いの共有

<手順>

- ・1人ずつ、ルールメイキングに参加した動機や活動に対する期待を話す（可能な限り教員も参加する）

ポイント：
先生の立場からの期待や不安などについて、率直な思いを生徒に伝える

(3) ルールメイキングに進めるうえで大切にしたいことを共有

<手順>

- ・1人ずつ、活動を進めるうえで大切にしたいことを話す

(4) グラウンドルールをつくる

<手順>

- 1 「ルールメイキングを進めるうえで大切にしたいこと」を念頭において、今後の活動についてどんな場をつくりたいかを言葉にして出し合う
- 2 そのために必要な行動を言葉にして出し合う
- 3 チーム全員で意識して守りたいものを3つ程度絞る



コラム ～立場のちがいによる緊張関係をほぐすための仕掛け～

「先生の前でこんな意見を出しているのかな？」と不安に感じている生徒の安心感をつくるため、「教員の立場を取り払って生徒と同じ目線で対話する」という姿勢の表明を「先生の宣誓」という形で実施した事例もあります。

■「先生の宣誓」について紹介されている動画
実践編③「ルールメイキングをはじめよう～対話のあり方～」



千葉県立姉崎高等学校

ルールメイキングの事前準備

③プロジェクトキックオフ

(3) 1年間の見通しをもつ

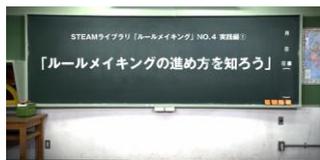
1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

ルールメイキングに参加するメンバーが決まったら、1年間の取り組みがどのように進んでいくか具体的にみて、見通しのイメージをつくります。

動画教材：実践編①「ルールメイキングの進め方を知ろう」



事例校：安田女子中学高等学校

再生時間：約5分

【動画のポイント】

●疑問を大切にする

学校の校則・ルールについて違和感を抱いていた生徒から始まった「保護者同伴でないカラオケ、ゲームセンター、ボーリング場への出入りは禁止」このルールはどうしてあるのだろうか？

●「なぜこの校則が存在するのか」を確認する

校長先生や生活指導の先生に対して、校則が出来た背景や、校則に込められた思いなどをインタビュー

●さまざまな人の声を聞き、新ルールを提案する

- ・保護者／警察／弁護士へのインタビュー、アンケート等を実施
- ・提案書を作成し、先生へプレゼンテーション

▶保護者が同伴しなくても、カラオケ、ゲームセンターボーリング場への出入りが可能に



動画教材の活用方法（例）

■活用場面例：校則検討の中心メンバーになる生徒と視聴し、感想を共有する【放課後活動での活用】

■生徒と一緒に考えたいポイント

①疑問を大切にする

- ・自分の学校のルールに対して、どんな『疑問』を持っているか？

②「なぜこの校則が存在するのか」を確認する

- ・どうして存在しているのかわからない校則があるか？

③さまざまな人の声を聞き、新ルールを提案する

- ・新しい校則を考えるにあたっては、どんな人から意見やアドバイスをもらうのがよいか？

④その他動画を見て感じたこと

- ・自校の状況との共通点・相違点はあるか？
- ・動画に登場する人物について、自分との共通点・相違点はあるか？
- ・自分の学校でルールメイキングを実施するとき、どんな工夫や取り組みをやってみたいか？
- ・動画を見て、ルールメイキングに対してどのような印象を持ったか？

実践編（Ⅰ）

ルールメイキングをはじめよう！

このセクションでは、ルールメイキングを行ううえで基礎となる「ルール」「対話」に関する基本認識をつくったうえで、自身の学校で見直したいルールを決めることをめざします。最初の段階で「そもそもルールとはなんだろう？」「このルールはなんのためにあるのだろうか？」といった、一連の活動の中で繰り返し出てくる問いを大切にすると、一連の活動がより深まりやすくなるでしょう。



▲栃木県立足利清風高校の生徒と先生がワークショップを実施し、見直したい校則について検討している様子

目次

Step1 ルールについての基本認識を形成する

- ・「ルールとは何か」について、動画教材を参考に考える

Step2 対話についての基本認識を形成する

- ・「対話とは何か」について考え、対話をするために必要な姿勢や方法を考える

Step3 広く検討すべきルールを見つける

- ・個々人が見直すべきと感じているルールについて、率直な意見を出し合い、意見を目で見てわかる形にまとめる

Step4 見直したいルールを決める

- ・見直しをすすめていくルールを絞る
(生徒を対象としたアンケートや、重要度／緊急度での整理などを活用する)

活用できる動画教材：

実践編②「ルールメイキングをはじめよう～そもそもルールとは？～」

実践編③「ルールメイキングをはじめよう～対話のあり方～」

Step1

ルールについての基本認識を形成する

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】
- 4 固定観念にとらわれない【前提の再考】

このStepの役割

■活動の目的
「ルールとは何か?」「何のためにあるのか?」について基本認識をつくっておくことで、ルールメイキングの活動を進める中で「めざしたいルールとはなんだったか?」と立ち返ることができます。やや抽象的なテーマですが、全体指針がしっかりしていると活動が進めやすくなるため、時間をとって考えられるとよいでしょう。

- 活動において大切にしたいこと
- ・「そもそも」の問いや疑問を大切にすること
 - ・ルールの原則（自由を守り、認め合うためにある）をおさえること
 - ・「校則（明文化された学校のきまり）」と「ルール（慣習や文化によるきまり）」の違いをおさえること
 - ・異なる意見や変わった発想もすぐ否定せず、まずは受け止めること
 - ・変えるべきものだけでなく、変えるべきではないものにも意識を向けさせること



動画活用のポイント

実践編②「ルールメイキングをはじめよう ～そもそもルールとは?～」
再生時間：約5分
出演：古野一徳さん（哲学者・教育学者）

【動画のポイント】

・「ルール」とは何か? なののために「ルール」はあるのか?

■ルールは、みんなが「自由」になるためにある
「ルールは、その社会を構成するメンバーを『しばるもの』というイメージをもっている人もいますが、実は逆に、『みんなが自由になるためのもの』なんです」

「私たちが暮らしている『民主主義社会』とは、『自分たちの社会を自分たちで作る』ものですね。だから、**社会を運営するためのルールは、一人一人の自由を守って、認め合うために存在するもの**なんです」

■いいルールとは何か?
「ルールは本来『自由を認め合うもの』だという原則に照らすと、本来は自由であっていいはずの髪型について、必要以上に厳しいルールは、『良いルールではない』ことになりますね」

■今の状況とルールは合っているだろうか?
「ただ、そのルールができた時には、何らかの理由があったんだろう、ということも想像できます」
「交通ルールでも、例えば、交通事故が多発する場所は制限速度を見直す、など、状況の変化に応じてルールを変えることもありますね。学校のルールである校則も、**時代や社会の変化とともに、かつて作ったルールが今も妥当なのか、見直すことも大切**だと思います」



動画を通じて考えたい問い

- 「そもそも」の問い
- ・そもそも「ルール」とは何だろうか?
 - 「校則」と「ルール」はどう違うのか?
 - ・ルールは本当にみんなを「自由」にしてくれるのだろうか?
 - ・ルールによって「自由」を感じた具体的な体験はあるか?

- 身近なルールを見つける問い
- ・この学校の中にはどんな「ルール」があるだろうか?

- 「いいルール」と「見直すべきルール」を考える問い
- ・この学校には、どんな「いいルール」と「見直すべきルール」があるだろうか?
 - ・(具体的なルールをひとつ取り上げて) このルールをつくった人にはどんな願いがあったのだろうか?
 - ・(具体的なルールをひとつ取り上げて) このルールが不要になったとしたら、それはどうしてだろうか?



Step1 ルールについての基本認識を形成する

【活動例】実践編②の動画を活用したワークショップ事例

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】

4 固定観念にとらわれない【前提の再考】

動画教材 実践編②「ルールメイキングをはじめよう ～そもそもルールとは？～」

概要

- 目的：ルールとはそもそもなんなのか？について、個々人の感じ方や意見を相互に理解する
- 対象：生徒
- 所要時間：50分

活動例

(時間)

- 目的・流れの説明(5分)
 - ・なぜルールの基本認識の形成が必要なのか

0:05

- 導入の問い(10分)
 - ・「学校の中にはどんなルールがある？」
個人ワーク：付箋に書き出す→共有する
 - ・グループの中で、気になるルールをひとつ決める
「どうしてこのルールは存在するのだろうか？」
理由を個人で考える→共有する

●ポイント：
「校則」と「ルール」の違いを説明する



0:15

- 動画視聴と感想共有(20分)
 - ・実践編②「ルールメイキングをはじめよう～そもそもルールとは？～」を視聴する(5分)
 - ・動画を見ての気づきを付箋に書き出す(5分)

- ポイント：動画の中で紹介された要点をおさらいする
 - ルールの原則：ルールは、お互いが自由を守り、認め合うためにある。
 - すべてのルールには、できたときの目的がある
 - 今の状況とルールが合っていない場合、ルールは変えていく必要がある。

0:35

- 自校のルールを考える(15分)
 - ・動画の内容も参考にして、自分の学校の中にある「見直すべきルール」と「良いルール」を1つずつ挙げる
個人ワーク：付箋に書き出す→共有する

●ポイント：
身近なルールへ視点を戻して考える

0:45

- まとめ(5分)
 - ・活動全体の感想共有
 - ・教員からのまとめ

0:50



事前準備

- 準備するもの
 - ・動画教材 実践編②「ルールメイキングをはじめよう ～そもそもルールとは？～」
 - ・付箋 ・サインペン ・模造紙
- レイアウト
 - ・4人1組程度で活動ができるように小グループにわけて行う

Step2 対話についての基本認識を形成する

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる【対話的なルールづくり】

このStepの役割

■活動の目的

ルールメイキングでは、活動全体を通して「対話」の姿勢が非常に重要です。校則やルールの見直しを進める中で、異なる立場の意見を聞いたり、まとめたりする場面がしばしば出てきます。その際、意見同士を対立関係で考えるのではなく、相手の立場を尊重し、対話を重ねながら納得できる答えをみつづけることが大切です。また、対話がうまく行われるためには、誰もが自分の意見を自由に言える環境づくりが大切です。

■活動において大切にしたいこと

- ・「対話」の趣旨を把握すること
- ・ひとりひとりが安心して意見が言える環境づくりをすること
- ・立場によって意見の言いやすさが違うということをふまえること
- ・相手の意見が自分と違って頭ごなしに否定せず、まずは聴くこと



活用する動画のポイント

■活用する動画

実践編③「ルールメイキングをはじめよう～対話のあり方～」

再生時間：約5分

【動画のポイント】

- ・千葉県立姉崎高校の事例から「対話とは？」を考える

■「対決」ではなく「対話」をしよう

「どちらが正しい、ではなくて、お互いの意見を尊重する形で、よりよい提案につなげていく。生徒たちは、教員の考えも取り込んで、お互いが納得できる解決策につなげていったわけですね」

■安心の環境や信頼関係が大切

「こうした『対話』が成立するためには、誰もが自分の意見を自由に発することができ安心できる環境や、信頼関係が重要になります」

■先生と生徒の関係も安心安全にすること

「姉崎高校では、ルールメイキングの活動がスタートするとき、『先生による宣誓』が行われました。生徒たちがいる前で、『われわれ教員一同は、教員という立場を取っ払い、生徒と同じ目線に立ち、対話することを誓います！』と宣言したそうです。こういった語り掛けがあると、生徒も安心して、グツと話しやすくなりますよね。」



動画を通じて考えたい問い

■そもそも「対話」とはなんだろう？

- ・「対話」と「対決（対立）」の違いはなんだろう？
- ・「対話」と「会話」の違いはなんだろう？
- ・「対話」と「議論」の違いはなんだろう？

■「対話」しやすい環境とはなんだろう？

- ・意見が言いづらい立場の人がいるとき、対話をするためにはどういう工夫ができるか？
- ・生徒が突飛な意見を言ったとき、すぐ否定せずに意見を受け入れることができているか？
- ・生徒が本音を言いやすい雰囲気をつくるためには、教員はどのような姿勢でいることが必要か？



Step2 対話についての基本認識を形成する

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる【対話的なルールづくり】

ルールメイキングでは、異なる意見をもつ他者と「対話」をするを通して、お互いが納得することのできる新ルール（解決策）をつくることをめざします。本ページは、「対話とは何か」「対話は『議論』や『会話』とどう違うのか」を整理し、対話の具体的なイメージをつけるために活用ください。

Q1. 「対話」「議論」「会話」の違いとは？

	内容	目的
会話	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽な挨拶や情報のやりとり ・楽しむための言葉のやりとり 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手と良い人間関係をつくること
議論	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的で効率的な話し合い ・どちらの意見が正しいか決める話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつの結論を決めること
対話	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な雰囲気の中で行われる ・新たな意味づけをつくる話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に対する理解を深めること ・新しいアイデアを生み出すこと

Q2. <さらに詳しく> 「対話」と「議論」どう違う？

	議論	対話
姿勢・態度	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しさを主張し合う ・「どうやったら自分の意見の正しさを納得させられるだろう？」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 相手の意見の背景を知ろうとする ・「相手の意見には、どんな背景や理由があるのだろうか？」 ・「そもそも、●●とはなんだと思いますか？」
やりとりの様式	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見をぶつけ合う ・「あなたは間違っている、なぜなら・・・」 ・「あなたの意見よりも、私のほうが・・・」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見をそっと置き、見えるようにする ・「私にはこう見えているんですが、あなたにはどう見えていますか？」 
考えの変化	<ul style="list-style-type: none"> ● 考えの変化は起こりづらい * 自分の立場を相手に納得させることが目的 	<ul style="list-style-type: none"> ● 考えの変化が起こりやすい * お互いに考えを共有した上で、相互理解を深めることが目的

コラム ～「対話」についてもっと深めるために～ 「対話」に関する参考動画を活用いただけます！

講師：古瀬正也さん（ワークショップデザイナー）
再生時間：20分
動画でわかること：
～10:00 「対話」「議論」「会話」のちがひ
～16:30 「対話」のメリット/持つべき心構え
～20:00 「対話」の定義



▲参考動画はこちらから視聴いただけます



Step2 対話についての基本認識を形成する

【活動例】実践編③の動画を活用したワークショップ事例

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる【対話的なルールづくり】

動画教材 実践編③「ルールメイキングをはじめよう～対話のあり方～」

概要

- 目的：対話とは何かを学び、対話を行うために必要な姿勢や行動を考える
- 対象：生徒
- 所要時間：50分

活動例

- (時間) 0:00 ■目的・流れ説明 (5分)
- 0:05 ■動画視聴 (5分)
実践編③「ルールメイキングをはじめよう～対話のあり方～」を視聴する
- 0:10 ■「対話」「議論」「会話」の違いを知る (10分)
・「対話」とその類似の言葉について、意味の違いや具体的なシーンのイメージをつける
- 0:20 ■対話の体験 (20分)
* 3～4名のグループで活動を行う
- ・目的の説明 (3分)
「対話」を通じて、異なる意見の中にある共通の思いや価値観を見つけてくれることをめざすことを伝える
 - ・話してもらおうテーマ (大きな問い) の提示
「いいルール/わるいルールってなんだろう？」
- (1) 個人ワーク (5分)
2つの問いについて考える
①あなたがこれまでに感じた「いいルール/わるいルール」にはどんなものがあったか？
②それらはどうして、「いいルール/わるいルール」だと思ったのか？
- (2) グループ対話 (10分)
各自の考えを共有し、「いいルール/わるいルールとはなにか？」について、共通点を探しながら、メンバーが納得できる答えをみつける
- (3) 全体共有 (5分)
最初の問い「いいルール/わるいルールってなんだろう？」について、それぞれのグループが考えた答えを共有する
- 0:40 ■個人内振り返り&共有 (10分)
・「対話」に関する振り返りを行い、チームで共有する
ー本日の活動全体を通じて気づいたこと/新しく考えたこと
ー自分はふだんから「対話」をすることができているだろうか？
ー「対話」をうまく行うためには、どのような姿勢や行動が必要だろうか？
ー「対話」は、ルールメイキングのどのような場面で生かすことができるだろうか？
(誰と「対話」を行いたいと思ったか？)
- 0:50



事前準備

- 準備するもの
 - ・動画教材 実践編③「ルールメイキングをはじめよう～対話のあり方～」
 - ・付箋 ・サインペン ・模造紙
- レイアウト 4人1組程度で活動ができるよう小グループにわけて行う

Step3 広く検討すべきルールを見つける

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】
- 3 「なぜ、この校則・ルールが存在するのか」を確認する【制定の根拠・背景の確認】
- 7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

このStepの役割

■ 活動の目的

この活動では、今ある校則・ルールの中から、検討すべき候補を洗い出します。取り上げるべきものをしっかりと上げるためにも、コアメンバー内での対話や、全校生徒に意見を聞く機会を設けるなどして、丁寧に検討を行うことが重要です。また、校則やルールへの認識を揃えるために、学校にどんなルールがあるのか確認することも大切でしょう。

* 既に対象となるルールが決まっている場合はStep5以降へ

■ 活動において大切にしたいこと

- ・ コアメンバーの生徒たちが、自分は何のルールを見直したいと思っているのかを見える化すること
- ・ 共有することで、思いや校則・ルールの現状認識の共通点・相違点を認識すること
- ・ コアメンバー以外の意見を聴くことで、学校全体を巻き込んだ活動にすること

考えたい問い

■ 現状の校則・ルールを確認する問い

- ・ この学校には、どのような校則・ルールがあるか？

■ 見直したいルールを検討する問い

- ・ あなたが見直したい校則・ルールは何か？
- ・ 他の生徒はどのような校則・ルールを見直してほしいと思っているか？

■ 見直したいルールを検討する方法を考える問い

- ・ 見直す校則・ルールを検討するために、誰に意見を聞けば良いか？
- ・ 見直す校則・ルールを検討するために、どのような方法で意見を聞けば良いか？

実践例

■ 現状の校則・ルールを確認する

- ・ 生徒手帳を読み合う
- ・ ルール（明文化されていない慣習）について可視化する

■ 校則・ルールのうち検討すべき候補をメンバー内で挙げてみる

- ・ メンバーで見直したい校則・ルールについて検討するワークショップを行う（→ p. 22 活動例）

■ 校則・ルールのうち検討すべき候補について全校生徒等から意見を集める

- ・ メンバーが周囲の生徒にヒアリングを行う
- ・ 掲示板や意見箱を通じて意見を集める
- ・ 全校アンケートを実施する（Googleフォームなど）
- ・ 授業や学級活動・ホームルームなどを利用してクラスでの意見交換を行う
- ・ メンバーが先生へのヒアリングを行い、検討すべき候補について先生の意見を聞く



▲ 生徒への意見箱



▲ 全校クラス会議



▲ 先生との意見交換

【活動例】

Step3 広く検討すべきルールを見つける

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 2 疑問をもった「私」からはじめる【発議の権利】
- 3 「なぜ、この校則・ルールが存在するのか」を確認する【制定の根拠・背景の確認】
- 7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

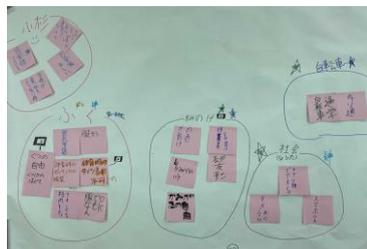
概要

- 目的：「見直したいルール」について、一人ひとりが感じていることを共有して、可視化する。
- 対象：生徒
- 所要時間：60分

活動例

(時間)

- 0:05 ■目的・流れの説明 (5分)
- 0:10 ■個人ワーク (5分)
 - ・私の視点で「見直したいルール」を一人ひとり付箋に書き出す
 - ※すぐに模造紙に貼らずに、まずは手元に溜めていく
- 0:10 ■グループで共有と分類 (30分)
 - ・最初の一人が一枚の付箋を模造紙の好きなところに貼り、説明する
 - ※なぜこのルールを見直したいのか、その理由も述べると良い
 - ・最初の一枚と「近しいルール」を書いた人がいた場合は、近くに貼って見直したい理由も説明する
 - ・もし「近しいルール」がない場合は、次の人にまわし、新しい付箋を一枚、模造紙の好きなところに貼り、説明する
 - ・全ての付箋を貼り終わったら、全員で分類する
 - ・似たものは線で囲って、カテゴリー名をつけたりする
- 0:40 ■個人のホットチョイス (5分)
 - ・特に「私が見直したいルール」に印 (チェックや点など) をつけて、多いものを強調させる
- 0:45 ■グループ発表 (10分)
 - ・模造紙を見せながら1グループ2~3分で発表する
 - ・残り時間は、質疑応答の時間
- 0:55 ■まとめ (5分)
 - ・活動全体の感想共有
 - ・教員からのまとめ
- 0:60



▲グループで共有と分類、個人のホットチョイスを終えた模造紙 (例)

事前準備

- 準備するもの
 - ・付箋
 - ・サインペン
 - ・模造紙
- レイアウト
 - ・4人1組程度で活動ができるように小グループにわけて行う

Step4 見直したいルールを決める

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる【対話的なルールづくり】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

このStepの役割

■活動の目的

この活動では、Step3での検討結果を踏まえて、今期見直す校則・ルールを決めます。その際、皆が納得できるよう、選定基準を考えながら丁寧に決めていくことが大切です。例えば選定基準には、重要性・緊急度・実現可能性などや、建学の精神や学校教育目標との関係なども考えられます。選定基準を考えるにあたって、メンバーでルールメイキングに取り組み目的・目標や、目指したい学校像・生徒像を話し合っても良いでしょう。

■活動において大切にしたいこと

- ・判断基準を明確にして決めること
- ・すぐに多数決で決めたり、誰かの大きな声で決めたりするのではなく、一人ひとりが納得できる形で決めること
- ・Step2（対話についての基本認識を形成する）での学びをもとに、十分な対話の場をつくること
- ・プロセスを可視化するために、決めた結果について全校に公開すること

考えたい問い

■見直すルールを決める選定基準を考える問い

- ・見直す校則・ルールを決めるために、どんな選定基準が必要か？

■見直すルールを決める問い

- ・皆の見直しへの支持が多い校則・ルールは何か？（生徒／教員の支持）
- ・少数意見ではあるが見直しが必要な校則・ルールはあるか？（少数意見の尊重）
- ・すぐに見直すべき校則・ルールはあるか？（緊急性）
- ・あなたが見直したい校則・ルールは何か？（生徒自身の思いや意思）

■決まった校則・ルールの発表についての問い

- ・今年度見直す校則・ルールをどのように、発表するのが良いか？
- ・今年度見直す校則・ルールを誰に、発表するのが良いか？

実践例

■Step3で挙げたものの中から、見直したい校則・ルールを決定する

- ・選定の基準を決める
例：重要性、緊急性、実現可能性、生徒／教員の支持、建学の精神や学校教育目標との関連、メンバー自身の思い
- ・選定にあたっての参考にするため、生徒へのアンケートや意見収集、投票などを行う
例：学級活動・ホームルームなどで全員参加型で実施する、一定期間中に任意参加の投票やアンケートを行う
- ・メンバーで話し合い、見直す校則・ルールを選ぶ（→ p.24 活動例）
 - * 必要に応じて、生徒だけで決めず、教員と話し合いの場を設けても良い。
 - * 見直すルールの個数は、一つに絞り全員で調査活動・新ルール案をつくる方法もあれば、複数個選び、チームに分かれる方法もある。コアメンバーの人数や、検討したいルールの個数によって判断する。

■選定結果について教職員や学校全体に発表する

【活動例】

Step4 見直したいルールを決める

1 一人ひとりが安心して居られ、声に耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる【対話的なルールづくり】

7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

概要

- 目的：「見直したい（見直すべき）ルール」を決める。
- 対象：生徒
- 所要時間：90分

活動例

- 目的・流れの説明（5分）
- (時間) 0:05 ■全校生徒へのアンケート結果を読み解く ※アンケートやヒアリングを実施した場合
・手順の説明、アンケート結果の資料を配布（5分）
- 0:10 ・個人で読み解く（5分）
(1) 自分の中で「この部分のデータは特に大事」だと感じるものに、印をつけていく
(2) 「何か思うこと・感じたこと・考えたこと・気になること」など、コメントを書き込む
- 0:15 ・グループで読み解く（10分）
(1) それぞれに書いた下線や印やコメントをグループ内で共有する
(2) 気になるデータについて自由に意見交換をして、分析や解釈してみる
- 0:20 ・全体共有（5分）
(1) 各グループでどんな話が出たのか、共有したい意見を全体で共有する（1分程）
- 0:25 ■見直すルールを決める
・手順の説明、観点の例示、A4白紙を1人1枚受け取る（5分）
- 0:30 ・個人で決める（5分）
(1) アンケート結果を参考にしながら、まずは、自分一人の考えとして、「今回、見直したい（見直すべき）ルール」の上位3つを決めて、A4白紙に書き出す
(2) 1位、2位、3位と、優先順位をつける。選んだ理由、その順位にした理由を、メモしておく
- 0:35 ・グループで決める（20分）
(1) A4用紙を見せ合って、お互いの理由を聞きあって、グループとしての合意をつくる
(2) グループメンバー全員の合意がとれたら、グループとしての考えを、模造紙にまとめる
- ポイント：決める上で大切にしたいこと
■まずは、あなたが率直に感じたことを、大切にします。
■同時に、相手が感じたことも、大切にします。
■意見とは、表面的なものです。その背後にあるもの（理由や想いや価値観など）にじっくり耳を傾ける。
■決める時は、一人ひとりが納得できることが大切。
■誰か一人の大きな声ではなく、みんなの合意で決める。
- 0:55 ・全体共有（10分）
(1) 模造紙を見せながら1グループ2～3分で発表する
- 1:05 ・全体で決める（20分）
(1) 全員で意見交換しながら、「今回、見直したい（見直すべき）ルール」を決める
- 1:25 ■まとめ（5分）
・活動全体の感想共有
・教員からのまとめ

事前準備

- 準備するもの
・アンケート結果（実施した場合） ・付箋 ・サインペン ・模造紙 ・A4用紙

- レイアウト
・4人1組程度で活動ができるように小グループにわけて行う

実践編（Ⅱ）

ルールメイキングをひろげよう！

このセクションでは、見直す校則・ルールが決まった後、調査を通じて、様々な人の意見や必要な情報を集めていきます。この作業を丁寧に行うことで、最終的な提案も説得力をもつものになります。自分たちの意見だけで進めるのではなく、関係する人たちの意見を受け止めながら見直しを進めることが、信頼関係や納得感の醸成にもつながります。



▲安田女子中学高等学校のルールメイキング委員会の生徒が、チームに分かれて新ルール提案に向けた調査について話し合っている様子

目次

Step5 調査計画を立てる

- ・今後の活動を進めるチーム編成を考える
- ・調査を進めるにあたってのガイダンスを行う
- ・各チームで調査計画を作成する

Step6 調査を実施して、データをまとめる

- ・調査を実施する
- ・調査結果を整理・分析する

活用できる動画教材：
実践編④「ルールメイキングをひろげよう」

【動画教材解説】

実践編④の動画でわかること／活用シーン

動画活用のポイント

■ 活用する動画

実践編④「ルールメイキングをひろげよう」

再生時間：約5分

【動画のポイント】

・ルールメイキングを一部の人に閉じられた取り組みにするのではなく、さまざまな関係者に周し、みんなの声を拾っていくことが大切。

- ・関係者全員の参加をきちんと保証する、
- ・生徒、先生、保護者など、多様な人たちが対話を重ねることで、自分たちだけでは見えなかった世界が見えてくる。

● 周りの友達を巻き込もう！

まずは周りの友達をいかに巻き込んでいくか、みんなで考えてみましょう。全校生徒にルールメイキングプロジェクトについて知ってもらい、楽しみながら参加を促すアイデアについて紹介しています。

● 先生方を、巻き込もう！

校則をもしも変えるとなると、学校の評判や、生徒指導の在り方にも影響するので、ルールメイキングの内容については先生も気になる部分です。生徒が見直したいと考えている校則について、実際に変える場合の課題や不安などについて、先生と一緒に考える「対話会」の事例を紹介しています。

● 保護者の方を、巻き込もう！

生徒や先生のほかに、校則の見直しに欠かせない当事者といえば、保護者の方々です。保護者の方へのアンケートや、PTA役員の方々との対話会についての事例を紹介しています。

実践編④ "みんなで決める"方法は？



動画を通じて考えたい問い

■ 自分たちの取り組みの中で、全校生徒を巻き込んでいくにはどうすればよいか？

- ・全校生徒から意見を集める方法には、どんなものがあるか？
- ・周りの友達に、楽しみながら参加してもらうためのアイデアとは？
- ・それぞれの参加方法における、メリットやデメリットとは？

■ 自分たちの取り組みの中で、先生方を巻き込んでいくにはどうすればよいか？

- ・先生方から意見を集める方法には、どんなものがあるか？
- ・この取り組みにおける、多くの先生方の期待感や不安感とはどんなものか？
- ・それぞれの参加方法における、メリットやデメリットとは？

■ 生徒・先生以外の関係当事者を巻き込んでいくにはどうすればよいか？

- ・生徒・先生以外に、学校の校則・ルールに関係する当事者とは誰だろうか？
- ・関係当事者から意見を集める方法には、どんなものがあるか？

【活動例】実践編④の動画を活用したワークショップ事例

動画教材 実践編④「ルールメイキングをひろげよう」

概要

- 目的：ルールメイキングの取組を広げていくために、誰に、どんな方法で調査をすればよいか考える
- 対象：生徒
- 所要時間：90分

活動例

(時間)
0:05

- 動画の視聴（5分）
・実践編④「ルールメイキングをひろげよう」を視聴する。

0:10

- 動画の感想を出し合う。（5分）

0:15

- 見直す校則・ルールについて、全校生徒の意見を聞く方法について検討する（20分）
・現在の取組において、全校生徒を何%くらい巻き込んでいるか、またそのように考えた理由について、グループ内で発表する。
（例：クラス代表と生徒会メンバーで話し合ったので10%、全校アンケートを実施したものの取組について認知していない生徒もいるので50%くらい、等）
・付箋と模造紙をつかって、より多くの生徒にプロジェクトを周知したり、さまざまな声を集めるためのアイデアを出し合う。
★アイデアを集める方法については、p.30を参照

●ポイント

クラスメイトや、周りの友達への反応に耳を傾けて、ルールメイキングの取り組みの認知度をチェックしてみましょう。校則・ルールを見直していく際、一部の生徒だけでなく、生徒全体に取組が周知されていることが何よりも重要です。

0:35

- 見直す校則・ルールについて、先生方の意見を聞く方法について検討する（20分）
・付箋と模造紙を使って、見直す校則・ルールや、プロジェクトの進め方について、先生方から広く意見を聞くための方法についてアイデアを出し合う。
★アイデアを集める方法については、p.30を参照

0:55

- ルールメイキングの取り組みについて、他にどんな人の声を聞いてみたいか、検討する（20分）
・付箋と模造紙を使って、見直す校則・ルールや、プロジェクトの進め方について、全校生徒・先生方のほかにどのような人の声を聞いてみたいか、アイデアを出し合う。

1:15

- 全体共有（10分）
・模造紙を見せながら1グループ2～3分で発表する

1:25

- まとめ（5分）
・活動全体の感想共有
・教員からのまとめ

1:30

●ポイント

動画教材にも登場している保護者の方をはじめ、地域の方、就職先の企業の方、専門家団体の方など、校則・ルールの制定や見直しには、多くの関係者が関わっていることを確認しましょう。また、話を聞いてみたい人が思い浮かんだら、どのような方法で意見を聞くか考えてみましょう。（調査方法については、p31をご参照ください）

事前準備

■準備するもの

- ・動画教材 実践編④「ルールメイキングをひろげよう」
- ・付箋 ・サインペン ・模造紙 ・A4用紙

■レイアウト

- ・4人1組程度で活動ができるように小グループにわけて行う

Step5

調査計画を立てる

4 固定観念にとらわれない
【前提の再考】

7 関係者が取り組みを見えるようにする
【プロセスの可視化】

このStepの役割

■ 活動の目的

調査を通じて多くの観点や意見、事例などを集めていくことで、様々な人が納得できるような、よりよい校則をつくっていくことに繋がります。まずは、あらかじめどのような調査が必要か考え、計画を立てておくことで、その後の調査活動を円滑に進めていくことができます。

■ 活動において大切にしたいこと

- ・なぜ／何のために調査を行うのかという目的を意識しながら計画を立てること
- ・その校則に関係する人を整理し、調査の対象をもれなく挙げること
- ・異なる調査方法の特徴や長所・短所をおさえること
- ・（生徒たちが変えたい校則の方向性を既にある程度持っている場合）生徒たちの考えに近い意見だけでなく、それ以外の多様な意見や観点にも触れられるように留意すること
- ・生徒たちの自由な発想や「やりたい」という思いを大切にしながら調査計画を立てること

考えたい問い

■ 「誰に」調査を行うのか？（調査の対象）

- ・見直しに取り組む校則には、どのような人が関係しているだろうか？
（例：生徒、教員、保護者、近隣の地域住民、卒業生など）
- ・見直しに取り組む校則に関連して、詳しい人や話を聞いてみたい人はいるか？
（例：専門家、問題の当事者、地域の企業など）

■ 「何を」調査するのか？（調査の内容）

- ・校則見直しを進めるにあたって、どのような情報が必要だろうか？
（例：現状の校則の背景、現状の校則に対する意見、校則見直しの案への支持度や賛否、その理由、考えられる改善策など）

■ 「どのように」調査を行うのか？（調査の方法）

- ・アンケートや意見箱、インタビュー、インターネットでの情報収集など、調査には様々な方法があるが、それらの長所・短所はどのような点にあるか？（例：調査範囲の広さ、得られる情報の深さ、信憑性、など）
- ・そうした調査方法の特徴を踏まえつつ、それぞれの対象にどのように調査を行えばよいか？

実践例

■ 今後の活動を進めるチーム編成を考える

- ・見直す校則が複数ある場合、関心のある校則別のチームに分かれる
- ・各チームのリーダーを決める

■ 調査を進めるにあたってのガイダンスを行う

- ・今後の活動の見通しや、なぜ調査を行うのかという目的について生徒と確認する
- ・代表的な調査方法（例：アンケート、インタビュー、インターネットでの情報収集など）を紹介し、それぞれの長所や短所について生徒と考える

■ 各チームで調査計画を作成する

- ・調査対象、内容、方法などを洗い出す（上記の「考えたい問い」も参照）
- ・それらを整理し、調査計画をまとめる
- ・全体的なスケジュールを踏まえながら、それぞれの調査の実施時期を決める

※時間の関係で、調査の方向性をある程度絞りたい場合は、まず見直しの方向性の案や仮説などを立てて、それについての意見を集めたり、関連する情報を集めたりする形で調査をデザインすることもできる。

このStepの役割

■活動の目的

多様な観点を踏まえながら校則見直しを進めていくためにも、調査を通じて校則をめぐる様々な意見や考えを知ることが大切です。また、そのように多様な考えがある中で納得解を見つけ出すことは簡単ではありませんが、調査を通じて得た情報や事例などが、その手掛かりになることもあります。こうした調査は、よりよい校則づくりのために重要であると同時に、生徒にとっても多様な人と関わり、多様な視点に触れられる貴重な体験にもなります。

■活動において大切にしたいこと

- ・全校生徒や教員の意見を十分に聴いていくこと
- ・学校関係者を対象とした調査や対話（例：全校生徒、教員、保護者、地域の方など）と、学校外の方への調査や対話（例：地元の企業へのヒアリング、専門家へのヒアリング、街頭調査など）を適切に組み合わせること
- ・調査を通じて、多様な意見や観点到に出会えるようにすること
- ・調査を通じて、生徒が大人の意見に必要な以上に押されたり流されたりする場合は、適宜フォローを行うこと
- ・調査結果について、わかりやすく整理すること

考えたい問い

■「なぜ」そのようになっているのか？（問題の背景）

- ・現状の校則はなぜそのようになっているのか？

■「どのような」人が「どのように」考えているのか？「どのくらいの」人がそう思っているのか？（意見の傾向）

- ・見直す校則について、全校生徒はどのように考えているか？生徒の中でも意見の相違はあるか？
- ・見直す校則について、教員はどのように考えているか？教員の中でも意見の相違はあるか？
- ・見直す校則について、保護者や地域の方はどのように考えているか？意見の相違はあるか？
- ・見直す校則について、専門家や問題の当事者はどのように考えているか？
- ・見直す校則について、世間一般ではどのような意見があるのか？

■「なぜ」そのように思うのか？（意見の背景）

- ・その人がそのような意見をもつのは、なぜなのか？

■「どのような」点で対立があるのか？（意見の対立構造）

- ・意見に対立がある場合、どのような点で意見が対立しているのか？



実践例

■調査を実施する

- ・調査の準備を行う
（例：アンケートの作成、インタビュー項目の準備、アポイントメントや許可、インタビューに向けた予習など）
- ・チームごとに調査を実施する
- ・必要に応じてチームを超えて連携して調査を行う
（例：各チームで聞きたいことを集約して1つのアンケートを作成する、合同でヒアリングを行う）

■調査結果を整理・分析する

- ・アンケートの結果を集計する
- ・アンケートの結果を属性別に分けて、傾向などを分析してみる（例：学年別、性別、年齢別、意見の傾向別など）
- ・インタビューで聞き取った内容を整理する
- ・立場による意見の違いや対立軸をマッピングしてみる
- ・調査を始める前に仮説があった場合は、仮説と結果を比較してみる

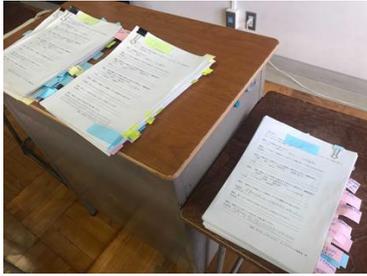
【活動例】

様々な調査方法の例



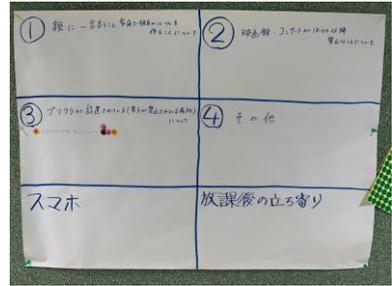
- 3 「なぜ、この校則・ルールが存在するのか」を確認する【制定の根拠・背景の確認】
- 7 関係者が取り組みを見えるようにする【プロセスの可視化】

調査の方法の例①：アンケート



▲全校生徒へのアンケート
(栃木県立足利清風高等学校)

調査の方法の例②：校内の掲示板



▲廊下の掲示を利用した全校生徒からの意見収集
(安田女子中学高等学校)

調査の方法の例③：街頭調査



▲街頭での頭髪に関するアンケート調査
(大阪夕陽丘学園高等学校)

調査の方法の例④：対話の場



▲教員との対話の場
(泉大津市立小津中学校)

調査の方法の例⑤：インタビュー



▲身だしなみに関する地元企業へのインタビュー
(千葉県立姉崎高等学校)

調査の方法の例⑥：インターネット等での情報収集



▲タブレット等を活用しての活動
(駒場学園高等学校)



実践編（Ⅱ）

新しいルールを提案しよう！

このセクションでは、調査が終わったら、いよいよ新しいルールの提案に移ります。生徒からの提案を行い、それを踏まえて必要な調整や対話などを行い、新ルールを決めていきましょう。また新ルール適用後も、新ルールの検証や活動全体の振り返りを通じて、次につなげていくことが大切です。



▲安田女子中学高等学校のルールメイキング委員会の生徒が、先生に向けて新しいルールを提案している様子

目次

Step7 新ルール（解決策）をつくる

- ・新ルール（解決策）を考える
- ・フィードバックや対話の機会を設ける

Step8 新ルール（解決策）を提案する

- ・提案の準備をする
- ・提案会を開く

Step9 新ルールの運用に向けて準備をする

- ・提案を受けて校内調整を行い、新ルールを確定させる
- ・全校生徒や関係者に新ルールについて周知する
- ・実際に新ルールを適用する

Step10 プロジェクト全体の振り返りをする

- ・新ルールの検証を行う
- ・活動全体の振り返りを行う
- ・今後の活動に繋げる

活用できる動画教材：

実践編⑤「新しいルールを提案しよう」

番外編③「社会で活躍するプロフェッショナルに聞く ルールメイキングの意義」

【動画教材解説】

実践編⑤の動画でわかること／活用シーン

動画活用のポイント

■活用する動画

実践編⑤「新しいルールを提案しよう」

再生時間：約5分

【動画のポイント】

・新ルール提案の際、調べたことをただまとめるのではなく、説得力のある資料を作成し、多くの人が納得できる提案を行う。

・ルールとは、みんながより自由になるために、みんなで作りあうもの。作ったルールが、本当にちゃんと機能するのか、みんなにとっていいルールになっているのか、見直し続けることが大切。

■事例：安田女子中高の提案書

実際に生徒たちが作成した提案書の内容をご紹介します。新ルールの提案の際、意識してほしいポイントについて解説しています。

▼安田女子中高の生徒たちが作成した提案書に書かれている4項目

- ①現在の校則と新たな校則の対比
- ②先生・生徒・保護者といった当事者の声
- ③社会的な背景
- ④まとめ・思い

■「見直して終わり」ではなく、次へつなげる

▼安田女子中高の事例

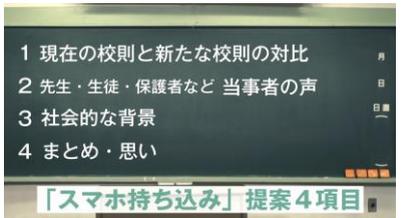
・校則の変更後、新たなルールを実際に運用してみてどうか、先生や生徒にヒアリングして検証。

・新たに第2期生を募集し、他の校則も含めて検討を続けている。

▼岩手県立大槌高等学校の事例

・生徒と先生とが一緒に検討する「校則検討委員会」を立ち上げ、継続的に校則・ルールを見直す取り組みを続けている。

実践編⑤ ルールを"提案"してみよう



動画を通じて考えたい問い

■どうやって提案を行うか

- ・どのような提案会の場にするか？
- ・提案する内容について、全校生徒や先生方、保護者、地域など、関係当事者の声が十分に反映されたものになっているか？
- ・先生方が納得できる提案書の内容・構成になっているか（根拠となるデータ等の提案の背景や、新ルールへの変更による懸念事項、それに対する解決策などが抑えられているか）
- ・提案の内容について、事前に先生方や外部の専門家の方から、意見をもらう機会をつくるか？
- ・試験運用の期間を設けるか？
- ・新ルールをどうやって全校生徒に周知するか？

■見直し続けるための方法とは？

- ・継続的に校則・ルールを見直すことができる校内の体制・システムがつくれているか？
- ・新ルール施行により、何らかのトラブルが起こった時は、どのような体制・方法で対処するか？

Step7

新ルール（解決策）をつくる

- 1 一人ひとりが安心して居られ、声を耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】
- 4 固定観念にとらわれない【前提の再考】
- 5 目的に叶う手段（校則・ルール）を論理的に提案する【目的合理性】
- 6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる【対話的なルールづくり】

このStepの役割

■活動の目的

これまでの調査で得た知見を踏まえ、新ルール（あるいは校則を変えない場合は現校則下でできる解決策など）を考えます。特に意見の相違や対立があるような場合、生徒にとっては、様々な人の意見や利害の調整を図りながら納得解を編み出していく学びにもなります。

■活動において大切にしたいこと

- ・これまでの調査でみてきた多様な意見を踏まえて新ルール（解決策）をつくること
- ・新ルールの導入に伴う影響を意識して考えること
- ・提案に先立ち、必要に応じフィードバックや関係者（全校生徒、教員、保護者など）との対話の機会を設けること

考えたい問い

■着地点を見つける

- ・意見の相違や対立がある中でも、意見が一致している点や、考え方が重なる点はあるか？
- ・意見の相違や対立がある中でも、合意できそうな点はあるか？

■新ルール（解決策）を考える

- ・新しい校則をどのようなものにするか？
- ・現状の校則のままでもできる解決策があるとすれば、それはどのようなものだろうか？

■新ルールの影響やメリット・デメリットを考える

- ・新ルールを導入することで、どのような人に影響があるか？
- ・新ルールを導入することで、どのような良いことがあるだろうか？
- ・新ルールを導入することで、どのような問題が起こりうるだろうか？
- ・新ルールを導入することで、懸念を抱く人や困る人はいるか？

■想定される問題や懸念への対応策を考える

- ・上記のデメリットを踏まえ、どのような解決策が考えられるだろうか？

実践例

■新ルール（解決策）を考える

- ・調査結果の分析も踏まえながら、新ルール（解決策）の方向性についてチームで議論する
- ・考えた新ルール（解決策）について、提案書にまとめる（→Step 8）

■フィードバックや対話の機会を設ける

- ・考えた新ルール（解決策）について、教員有志（例：担任、生徒指導担当の教員など）からフィードバックをもらう
- ・考えた新ルール（解決策）について、外部の専門家（例：弁護士）からフィードバックをもらう
- ・考えた新ルール（解決策）について、全校生徒が参加できる意見交換の機会を設ける（例：各クラスでの話し合い、意見募集、希望生徒が自由に参加できるオープン会議）
- ・考えた新ルール（解決策）について、関係者（例：教員、保護者など）との対話の機会を設ける

Step8 新ルール（解決策）を提案する

5 目的に叶う手段（校則・ルール）を論理的に提案する【目的合理性】

6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる【対話的なルールづくり】

このStepの役割

■活動の目的

関係者に向けて、生徒が考えた校則見直し（やその他解決策等）の提案を行います。ここでは、多くの人が納得できるような説得力のある提案をまとめることが重要な目標となります。生徒にとっても、多様な視点を踏まえながら、自分たちの思いや考えを整理する学びにもなります。また、提案の場を応答的で対話的な場にしていくことで、生徒が自分たちの声が受け止められたと感じられる経験にも繋がります。

■活動において大切にしたいこと

- ・生徒たちの思いを乗せた提案をつくること
- ・根拠となる意見やデータとあわせて提案をすること
- ・提案の場では「対立」ではなく「対話」を大切に、生徒も教員も一緒に納得解を考えていく場にする

考えたい問い

■聴き手のことを考えて、提案内容を整理する

- ・聴き手にとって聴きやすい発表や提案はどのようなものか？
- ・提案の内容や順番はどのようにすると分かりやすいか？

■提案に説得力をもたせ、提案会に備える

- ・説得力のある提案にするためには何が必要か？
- ・提案の根拠となる意見やデータにはどのようなものがあるか？
- ・提案を受けてどのような反応（疑問や反論など）が予想されるか？

実践例

■提案の準備をする

- ・これまでの活動内容を整理し、提案書を作成する
(例：現校則、新校則案、現校則の背景、根拠となる情報やデータ、見直しに向けた様々な意見、メリット・デメリット、懸念される問題等への対応策、自分たちの思いなど)
- ・提案のプレゼンテーションの準備をする

■提案会を開く

- ・生徒が提案を行う場を設ける
(例：管理職等への提案会、全校集会、学校協議会、学校運営協議会など)
- ・提案を受けて意見交換を行う

提案会の準備のポイント

先生方を集めて提案会を実施する際、下記のポイントを意識して準備してみましょう。

■提案会を開催する目的とはなにか？

(提案内容について意見をもらう場か、見直す内容を決定するための場か、…等)

■提案の方向性について、プロジェクトチームの生徒・先生方の中で、大枠の合意がとれているか？

■提案する内容について、全校生徒や先生方、保護者、地域など、関係当事者の声十分に反映されたものになっているか？

■すでに先生方から明確な懸念点が示されている場合、それを解消するための策を検討し、提案内容に盛り込んでいるか？



先生に向けた提案会

①現在の校則と新たな校則との対比

1. 現在の校則

生徒手帳などから
現状の校則の正確な文言を引用すると
良いでしょう。

2. 新校則の提案

1と2を新旧対照表のような形で
並べて書いても分かりやすいです。

②先生・生徒・保護者といった当事者の声

3. 全校生徒へのアンケート結果

根拠となるデータや、異なる立場からの
意見などを整理して記載することが
大切です。

アンケートの集計結果は、
グラフなども使って
視覚的にも分かりやすく
すると良いでしょう。

4. 先生方や保護者からの意見

■先生方から出た意見

・
・
・

■保護者からの意見

・
・

5. 懸念事項と解決策

調査を通じて見えてきた懸念事項について、
どのように対応するのか、考えを示すことも、
対話的な提案につなげる工夫の一つです。

③社会的な背景

6. 資料

■〇〇の現状（〇〇より）

■△△について（〇〇より）

インターネットや文献などで集めた
根拠となる情報やデータなどもあれば、
必要に応じて活用すると効果的です。

④まとめ・思い

7. まとめ／私たちの思い

活動してきた生徒たち自身の
伝えたい思いなども最後に
書き入れると良いかもしれません。



Step9

新ルールの運用に向けて準備をする

7 関係者が取り組みを見えるようにする
【プロセスの可視化】

8 できた校則は公開する【情報の公開】

9 一度つくった校則・ルールを見直し続ける
【継続性と改正手続きの制度化】

このStepの役割

■活動の目的

生徒の提案を受けて調整を行い、新ルール（解決策）の実施にまで繋げます。調整の過程を通じて教員や関係者間の不安や懸念を払拭し、納得感を醸成しておくこと、また新ルールが決まったらその考え方や内容を十分に全校生徒等に共有することで、適用後の学校運営も円滑なものにしやすいです。

■活動において大切にしたいこと

- ・新ルールの決定までのプロセスに教職員が適切に参加できること
- ・生徒の提案から修正を行う場合、生徒とも対話の場を設け、双方の納得感を目指すこと
- ・新ルールの考え方や具体的な内容について、適用前に全校生徒や関係者に十分に伝えること



考えたい問い

■新ルールの確定に向けた調整

- ・提案を受けて、どのような課題や懸念が指摘されていたか？
- ・新ルールが確定するまでに、どのような人との対話が必要か？

■必要な人への周知や準備

- ・新ルールの運用開始までに、どのような人に周知が必要か？
- ・新ルールの運用開始までに、どのようなことを伝える必要があるか？
（例：生徒の思い、新校則の適用にあたっての考え方、新校則の具体的内容など）
- ・周知はどのように行うか？
- ・新ルールの運用開始までに、そのほかに必要な準備はあるか？

実践例

■提案を受けて校内調整を行い、新ルールを確定させる

- ・生徒の提案を受けて、新ルールの決定に向けた教職員側での調整を行う
- ・生徒の提案から修正や検討などが必要であれば、生徒と教員との意見交換を行う
- ・学校内での意思決定プロセスを踏み、新ルールを確定させる

■全校生徒や関係者に新ルールについて周知する

- ・生徒たちと全校生徒に周知すべきことや周知の方法などを考える
- ・全校生徒への周知を行う
- ・全校生徒以外にも必要な人への周知や発信を行う（例：保護者、近隣地域の住民、ウェブサイト等での公開）

■実際に新ルールを適用する

※初めから全面的に新ルールに変更せず、一度期間限定で試験的に適用してみて、検証する方法もある。

Step10

プロジェクト全体の振り返りをする

1 一人ひとりが安心して居られ、声を耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

9 一度つくった校則・ルールを見直し続ける【継続性と改正手続きの制度化】

このStepの役割

■活動の目的

この活動は、校則を変えて終わりではありません。実際に変えてみることで見てきた実態や課題を検討しながら、見直しの議論を継続的に行っていくことも大切です。また、これまでの活動を通じて得た気づきなどをしっかりと振り返ることで、学びを深めることが期待できます。

■活動において大切にしたいこと

- ・新ルール適用後も、見てきた実態や課題を把握し、継続的な見直しに繋げること
- ・活動を「やりっぱなし」にせず、学んだことや活動の課題などを振り返ること

考えたい問い

■新ルールの検証

- ・全校生徒は、新ルールの内容を十分に理解しているか？
- ・新ルールの運用は、順調にできているか？ 課題はあるか？
- ・新ルールを運用してみて初めて浮き彫りになった問題点などはあるか？

■活動全体の振り返り

- ・活動の進め方において良かった点はどのような点か？ 課題や改善点はどのような点か？
- ・活動を通じてどのようなことを学んだか？ どのような気づきがあったか？
- ・活動を通じて自分にはどのような成長があったか？
- ・活動を通じて周りの生徒や学校全体にはどのような変化が生まれたと思うか？
- ・今後の活動で取り組むべき課題はどのような点か？

実践例

■新ルールの検証を行う

- ・新ルールを適用してみたの実態、成果や課題などについて話し合う
- ・新ルールについて他の生徒や教員にも聞いてみる（例：簡単な聞き取り、アンケートなど）
- ・今後検討すべき課題があれば話し合う

■活動全体の振り返りを行う

- ・振り返りのワークシートを用意し、記入する
（例：活動のプロセスの良かった点や改善点、個人の学びや気づき、成長、周りの生徒や学校全体の変化、今後に向けての課題や考え など）
- ・振り返りの場を設け、活動のプロセスや学んだことについてそれぞれの振り返りを共有し、深め合う
- ・一連の活動をまとめた成果物を作成する
- ・活動成果を他校と合同で発表する場を設ける

■今後の活動に繋げる

- ・次期の活動の見直しを立てる
- ・次期の活動に参加したい生徒の募集を準備する
- ・校則見直しに必要な手続きに課題があれば、見直しや制度化などを検討する

<振り返りのワークシートの項目例>

- プロジェクトの活動の進め方について、あなたの思う、良かった点や改善点などを自由に書いてください。
- プロジェクトに参加してみて、あなた自身にはどのような変化や影響がありましたか。（例：学んだこと、成長したと思うこと、考え方や感じ方が変化したと思うことなど）
- プロジェクトを行ったことで、学校に何か変化が生まれたと思いませんか。もしあれば、どのように変わったと思うか、書いてください。

【活動例】

プロジェクト全体の振り返りをする

1 一人ひとりが安心して居られ、声を耳を傾け合える環境づくり【心理的安全性】

9 一度つくった校則・ルールを見直し続ける【継続性と改正手続きの制度化】

概要

- 目的：プロジェクト活動を振り返り、自分にとって大切な学びや気づきや発見を見つけ、お互いに分かち合う。
- 対象：生徒
- 所要時間：150分

活動例

(時間)
0:00

- 目的・流れの説明(5分)

0:05

- ペア・インタビュー(40分)
 - ・ミニレクチャー「インタビューのコツ」(5分)
 - ・ペアをつくり前半「話し手」「聞き手」を決める(3分)
 - ・相手の「振り返りシート(事前記入)」を読んで質問を考える時間(5分)
 - (1)「気になったところ」に印をつけながら、「聞いてみたいこと(質問)」を考える
 - ・前半のインタビュー(12分)
 - (1)インタビューの時間(10分)※メモを取りたくなったら、自由にメモを取る。
 - (2)聞き手からフィードバック(1分)「話を聞かせてもらって、今、私が感じていることは…」
 - (3)話し手から一言(1分)「話を聞いてもらって、今、私が感じていることは…」
 - ・後半のインタビュー(12分)
- ※予備時間(3分)

0:45

- 個人で振り返り(25分)
 - ・「学びカード(A5)」の「1人5枚」
 - ・「学びカード」を書く時間(20分)
- ※予備時間(5分)

1:10

- 休憩(5分)

1:15

- グループで共有とフィードバック(50分)
 - ・4人1組(4~5グループ)に分かれる(3分)
 - ・グループで共有(40分)※1人の持ち時間「10分」
 - 前半：書いた「学びカード」を紹介(5~7分程)
 - 後半：メンバーから一言フィードバック(3~5分程) ▲学びカード(例)
- ※予備時間(7分)

2:05

- 個人のまとめ(5分)
 - ・A4白紙を配布し、上記の問いについて、大きく書き出す
 - 問い「あなたにとって、ルールメイキングプロジェクトは、どんなプロジェクトでしたか？」
 - 例「○○で、△△なプロジェクト」

2:10

- チェックアウト(15分)
 - ・1人40秒程で、書き出した紙を見せながら、紹介する

2:25

- まとめ(5分)
 - ・活動全体の感想共有
 - ・教員からのまとめ

- インタビューのコツ
 - 自分が「気になったこと」「聞いてみたい」と思ったことを素直に聴いてみる。
 - 相手の言葉をしっかり最後まで聴ききる。言葉を待つ。
 - 相手から出てきた言葉を掘ったり・深めたりする。

ルールメイキングプロジェクトを通して得られた、あなたにとって大切な「学び」「気づき」「発見」は？(一言、あるいは、一文で)

上記の「学び」「気づき」「発見」が得られた経緯や具体的なエピソードなど

氏名：_____

事前準備

- 準備するもの
 - ・振り返りシート(宿題として、事前に記入しておく)
 - ・学びカード ・付箋 ・サインペン ・ボールペン ・A4用紙
- レイアウト
 - ・4人1組程度で活動ができるように小グループにわけて行う

【発展的な学習につなげる】

番外編③の動画でわかること/活用シーン

番外編③「**「社会で活躍するプロフェッショナルに聞く ルールメイキングの意義**」では、音楽界やビジネス界など、多様な分野で活躍するプロフェッショナルのお話を通じて、社会における「ルールメイキング」の重要性について知ることができます。こちらの教材を使用することで、ルールメイキングの取り組みと社会とのつながりについて学ぶことができ、より発展的な学習につなげていくことができます。

番外編③「社会で活躍するプロフェッショナルに聞く ルールメイキングの意義」

番外編③ "ルールを作る"意味とは？



出演者：

宇宙ベンチャー企業・株式会社ALE（エール）代表 岡島礼奈さん
ボーカルグループ「湘南乃風」メンバー 若旦那さん

再生時間：約13分

【動画のポイント】

岡島さんのエピソード

- 交通ルールがない「宇宙」でのルールメイキング
- ビジネスのルールメイキングは、規制するだけではなく、いかにみんなが利益を得ることができるかも重要

若旦那さんのエピソード

- 音楽業界の変化の速さと、ルールメイキング
- 自分たちでルールをつくることで、責任も生まれるが、楽しみも生まれる

動画教材の活用方法（例）

■活用場面例①：

校則検討の中心メンバーになる生徒と視聴し、感想を共有する【放課後活動での用】

■活用場面例②：

探究学習やキャリア教育の授業の中で視聴し、感想を共有する【授業における活用】

■生徒と一緒に考えたいポイント（例）

①岡島さんのエピソードから

- ・「まだルールがないところに、新しくルールを作った」という経験があるか？それはどんな経験か？
- ・一見当たり前に見えることに対して「なんでだろう」と背景を考えたことがあるか？それはどんなときか？

②若旦那さんのエピソードから

- ・「これまで当たり前だったことが、ガラッと変化した」と感じた経験はあるか？
- ・「自分で決めた」ことに対して、責任や楽しみが生まれた経験があるか？それはどんな経験か？

③動画全体を通じて

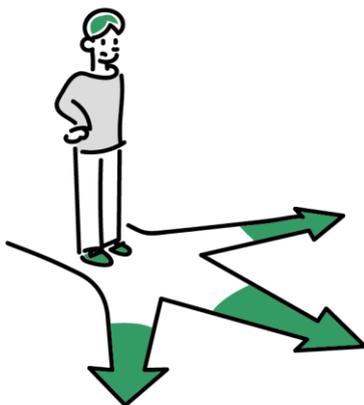
- ・自分の人生における最大の「ルールメイキング」の経験とはどんなものか？
- ・卒業後、社会で求められる「ルールメイキング」の力とは、どんなものか？

ルールメイキングQ&A

先生のお悩み相談室

このセクションでは、「自分の学校でも、校則・ルールの見直しの活動に取り組んでみたいけど、どこから始めればよい?」「周りの先生方や、保護者、地域の方からの理解を得るためには?」など、ルールメイキングを始めようとしている先生方が抱える不安や悩みに答えるページです。

学校でルールメイキングを行う際、先生として意識しておきたいポイントや、他の先生方と一緒に理解を深めていくためのアイデア、保護者や地域の方、外部の専門家など、学校内外の関係者に協力者を得る方法などについて紹介します。



目次

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える

活動例

- (1)動画を題材に、対話をする
- (2)教員コアメンバー 対話ワークショップ
- (3)教員全体 対話ワークショップ

②保護者の方・地域の方と一緒に、校則やルールメイキングについて考える

③ルールメイキング振り返りチェックリスト

活用できる動画教材：

番外編①「特別対談 いまなぜ教育現場でルールメイキングが必要なのか?」

番外編②「ルールメイキングQ&A 先生のお悩み相談室」

ルールメイキングプロジェクトQ&A ～先生のお悩み相談室

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える

1 まずひとり：ルールメイキングの情報・事例を集める。

学校内の関係者から協力を得るには、ルールメイキングへの共感を生み出すことが大切です。ルールメイキングの実践事例は、全国に少しずつ増えてきています。事例や情報を収集する中で「ルールメイキングを通じて生み出したい変化や学びは何か?」「どうして自分の学校でルールメイキングをはじめたいのか?」など自分の思いを言語化してみましょう。あなたの率直な思いが関係者の共感へと繋がります。

ルールメイキングの情報を得るには?

A.ルールメイキングパートナー制度があります。(制度紹介は、p.53)

みんなのルールメイキングプロジェクトでは、全国のルールメイキングに取り組む学校・教員コミュニティの運営や情報発信を行っています。ぜひパートナーへ登録してみてください。

2 身近な誰かと一緒に：ちょっとした疑問について、まずは話してみる。

校則・ルールへの疑問や、ルールメイキングへの思いを持ったあなたから、ルールメイキングは始まります。教員・生徒・保護者など学校に関係する人全ての人がルールメイキングの当事者であり、誰もが声をあげる権利があります。同僚でも、管理職でも、生徒でも、まずは、身近にいる人に勇気をもって、「校則について、あなたはどう思ってる?」と話してみましょう。

実際に取り組むには…

▶活動例①動画を題材に、対話する (p.43) へ

活用できる動画：番外編①「特別対談 いまなぜ、教育現場でルールメイキングが必要なのか?」
番外編②「ルールメイキングQ&A 先生のお悩み相談室」

3 学校全体で：学校の校則・ルールについて、対話する。

■有志の教員と一緒に話す

1対1でのコミュニケーションを重ねて増えてきた仲間の先生方(コアメンバー)で集まり、校則・ルールについてやルールメイキングへの思いを話し合う対話機会をつくりましょう。校則・ルールの認識や思いの共有点や相違点が見えてきます。また、対話機会に参加したコアメンバーの先生方と一緒に、ルールメイキングを学校全体で取り組むにはどうしたらよいか考えることで、プロジェクトが大きく前進します。

実際に取り組むには…

▶活動例②教員コアメンバー対話ワークショップ (p.48) へ

■教員全体で話す

校長や管理職の承認を得ることができれば、教員全体での対話機会をつくってみましょう。教員全体で話す機会をつくることで、これまで知ることがなかった先生方それぞれの認識や思いを知ることができるとともに、校則・ルールを学校全体での議題にすることができます。

実際に取り組むには…

▶活動例③教員全体 対話ワークショップ (p.49) へ



▲有志の先生同士での対話



▲教職員全体での対話

ルールメイキングプロジェクトQ&A ～先生のお悩み相談室

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える

4 職員室内で、活動進捗の報告・共有を定期的に行う。

ルールメイキングの活動がはじまってからも、職員室内での情報共有を続けることが大切です。活動の様子や進捗が可視化されていることで、「今何が行われているのか」を知ることができ、関係者の不安解消に繋がります。

■情報共有の事例

安田女子中学高等学校では、活動の様子をまとめた新聞を定期発行して、職員室内でも回覧していました。加えて、担当教員が情報共有会を開催して、活動について気になることを直接話せる場をひらいていました。職員会議で定期報告の時間を持つことも良いでしょう。



▲活動の様子をまとめた新聞



▲教員同士の情報共有会

5 外部のコーディネーターや専門家を交えて、対話する。

教員同士の中での議論が煮詰まってきた場合は、外部のコーディネーターや専門家に助言をもらうなど、第三者を交えて対話をするのもよいでしょう。学校の校則・ルールについて専門的かつ客観的な観点からコメントをもらうことで、教員同士では出てこなかったような新しい視点を獲得ことができ、よりプロジェクトが前進することもあります。

外部人材との連携やサポート体制については…

▶「ルールメイキングパートナーになりませんか？」(p.53)へ



▲外部コーディネーターが企画した教員ワークショップ



▲スクールロイヤー（学校内弁護士）による研修会

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える 【活動例】番外編①②の動画を題材に、対話をする

周りの先生と
動画の感想を
シェアする



▼動画教材ダイジェスト 先生向け動画 番外編① 「特別対談 いまなぜ、教育現場でルールメイキングが必要なのか？」



■対談メンバー

工藤勇一さん（横浜創英中学・高等学校 校長）
為末大さん（元陸上選手 オリンピック選手）
今村久美（認定NPO法人カタリバ代表理事）

■この動画について

校則・ルールの見直しや、ルールメイキングの取り組みなどについて関心を持っている学校関係者の方向けの動画です。教育界・スポーツ界の最前線から、いまなぜルールメイキングの力が必要なのか、その本質に迫ります。ぜひこの動画を周りの方にも共有して、感想を話し合ってみてください。

ポイント：ルールを「多数決で決めよう」では、なぜいけないのか？（2:54）

子どもたちにルールを決めてもいいよって、権限を与えるよっていうと、たぶん今の子どもたちは、保護者とか教員たちの顔を伺いながら、忖度するっていうんですね。忖度しながらルール決定をするかもしれない。もしそうじゃなくて本当に自分たちで決めてもいいよということが確保できたとしても、**たぶん最初に気がつくのは、「みんな違っていい」って口では言うけど、本当に違っているということ。**…多数決とかアンケートは、たぶん手っ取り早い方法として、たぶんこれしかないだろうって、彼らももし思っているのであれば、このルールメイキングっていうのは価値はものすごく低くなってしまいます。なんでかということ、**マイノリティーを切り捨てるということを、自分たち自ら行っているわけで、「多数派の勝ちだからルールこれでOKでしょう」という話になってしまう。**…本当は、**みんなの生活を豊かに、幸せにするためのルールメイキング**だったはずなのに、ルールメイキングを自分たちが行うというプロセスそのものが目的になってしまうということが起こりうると思うんですね。



横浜創英中学高等学校校長
工藤 勇一 さん

ポイント：「自律」と「尊重」という教育目標から発展した麹町中学校の取り組み(23:05)

麹町中の最終目標というのは、「自律」と「尊重」というのがあるんですけど、「自律」というのは、自分で考えて判断して決定して行動する。それを妨げている活動がないですかというのが、いつも議論の中心ですね。「尊重」というのは、違いを理解して他者を尊重していますが、これを損ねている活動があれば、みんなで改善していきましょうと。…そこに出てきた子どもたちのアイデアは、**避難訓練を月1回やっているけど、先生たちの後をついているだけだ**と。これは自分たちで考えて判断して行動してない。だったら、「**月1回の避難訓練は先生たちは見てください**」と言ったんですね。いつ地震来るかわからないんだから、これで子どもたちだけで逃げるっていう訓練をしておかないとまく行かないからって言ったんですね。それが、僕が6年目の最後の委員会だったんですね。…今年はどうなった？って聞いたら、「いや～発展してますよ」と。避難訓練は生徒たちだけで避難しますけど、それどころではないと。生徒が講評しているんです。「今日の避難訓練のポイントは」という評価も子どもたちがやっている。で、専門的な知識を説明するの子どもたち。それにみんな驚いていたんですけど。つまり、**与えられることじゃ、与えられていつも文句を言ってるんじゃないくて、自分たちの生活を自分たちで改善するんでしょ、**ということが浸透しているから、今も発展している。

ポイント：「対立」ではなく「対話」で合意をつくるために、必ず「最上位の目標」を確認する（58:08）

トップがやらなきゃいけないことは…基本的には**その構成員みんなが当事者**に変わるということをしなきゃいけない。だから、一つ目は当事者に変えるための作業が要るんですけど、そのためには今変えられるとありましたけれども、**変えられる権限を与えること**だと思うんですよ。…でも、ここで問題になってくるのが、権限を与えるだけだと、必ず組織がめちゃくちゃになるんですね。なぜかということ、自分の成功体験とか価値の自分の価値観を押し付けようとするから、そういうアイデアを出そうとしますと、みんなバラバラの方向を向くわけですね。だから組織を作るときに、**次に大事なものは、目指す本物の最上位、みんながこの構成員が、全員がこれはOKだというその理念を、きちんと作る**ことの作業でしょう。ここに戻るとのことだったら、もうルールも何でもそうですけども、**必ず上に戻るものがあるというのが対話を進めていくための唯一の手がかりだ**と思うんですね。だから組織を良くするためには、最上位を一回全員で合意する。学校だったら、生徒、保護者、みんなが合意するために、何度もアナウンスすることですね。繰り返して、繰り返して、一人一人の中で考えさせるプロセスがあります。…それまでは、できたらもうほとんど終わり、3つ目はそれを実現するために手段をどうする、今までの手段はおかしいよねって、変えられると思うんですね。…麹町は今も改善が続いているのは、この仕組みが残っているからなんですよ。

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える 【活動例】番外編①②の動画を題材に、対話をする

周りの先生と
動画の感想を
シェアする



▼動画教材ダイジェスト 教職員向け動画 番外編① 「特別対談 いまなぜ、教育現場でルールメイキングが必要なのか？」

ポイント：スポーツ界でもさかに行われている、ルールメイキングの動き（32:12）

義足で走るランナーというのが、本当にこの20年ぐらいで競技力が上がったんですね。最初はオスカー・ピストリウスという、ひざ下が全部切断した選手が試合に出場をしようとして、すごい速くなったんですね、義足で。それで国のトップぐらいになったので、オリンピックに出たいと言って…出場できたんですね。その後しばらくして、今度はマークス・レームという選手が出てきて、これ幅跳びなんですけど、8m50cmぐらい飛び始めて、オリンピックに出ると優勝記録より飛んでいる試合とか出てきちゃったんですね。この選手を試合に出すかどうかというのがとても問題になって、これはつまり義足は有利なの？不利なの？という話なんです。結果としてIWA国際陸連は、どちらとも言えないみたいな裁定を下して、出られなかったんですよ。あと最近、とてもホットなトピックは、トランスジェンダーのアスリートで、生まれた時には男性の身体なんですけど、自分自身としては、女性だっていう選手が、女性のカテゴリーで試合に出場できたときに、これどうするのっていうのがあって、まさにここでルールメイキングをしなきゃいけない中で、議論しているんです。比較的アメリカを中心に、盛んに議論が行われています。日本のアスリートは、やっぱりそこに参加できていないという現状はありますか。



元陸上選手 オリンピック選手
為末大さん

ポイント：スポーツでも、いま「自分で考えさせる」「自分で決める」指導が必要（34:29）

自分で考えさせる指導より、とにかく言われたことをやる…スポーツはそういうのが多くて、そうすると中学校3年間は、とにかく言われた通りやる選手が伸びたりして。高校もそれがうまくいったりしていくんですけども。だから、20歳ぐらいまでのカテゴリーだと、日本は世界ランキングで3位とか5位ぐらいをウロウロする。これが20歳を超えると急に世界ランク20位ぐらいに日本が落ちてきちゃうんです。それは私の予想では、その後自由を与えられたときに…自分で決めなきゃいけないのってなって、うまくいかなくなくなることが起きていて。だから部活動の仕組みっていうのが、短期で結果を出すことにフォーカスしすぎていくと、選手が強くなって苦しみにも耐えられるんだけど、自分での意思決定はまったくないので、それにはすごく戸惑っちゃうって、そんな缶詰現場になっていますね。

ポイント：ルールについて考えるときの、3つの原則（56:24）

私は、海外にスポーツをやっていた時に一番思ったことは、ルールは変えられるという前提で選手たちが話をしているのと、ルールが変えられないと思っている自分との対比をものすごく感じました。「ハードルって1個ない方がいいんじゃないの」と言った選手がいたんですね。（自分は）ハードル10個あるというのが決まっている中で、どう自分が生きていけばいいか考えていた。そこから考えていくと、ルール自体を変えるという発想が出てくる。（さらに）スポーツを生み出すという発想が出てきて、このスポーツがあると世の中に面白いんじゃないかってのが出てくるんです。なので、私はやはり、ルールについては3つの原則を自分の中に持とうと思って。一つ目は、ルールはやはりきちんと守らなきゃいけない。二つ目は、でもルールは変えることができる。そして三つ目は、ルールを変えるという提案は、誰しもうまくできる、ということです。その原則を、みんながちゃんと守るだけでも、日本のスポーツってすごい変わるんじゃないかなと思っていて。選手がルールに対してチャレンジするって勇気があることなので、そういうことを言った先生には、それがコストでも受け入れて、それ自体は賞賛したり、尊敬してほしいなと思います。

番外編①の動画を見て、感想を話し合ってみましょう（考えてみたい問いのテーマ例）

- 自分たちの学校で、みんなが立ち戻れる「最上位の目標（学校目標）」とは何か。どのように校則・ルールの見直しを進めていけば、最上位の目標を達成することができるか？
- 生徒と先生、生徒同士、先生同士が「対立」するのではなく、「対話」を通じて合意形成をしていくために、どのような取組が必要か？
- 生徒に「自分で考えさせる指導」を行うことのメリットや、不安な点は？不安な点はどのようにしたら解消できるか？ 等



①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える 【活動例】番外編①②の動画を題材に、対話をする

周りの先生と
動画の感想を
シェアする



▼動画教材ダイジェスト 教職員向け動画 番外編② 「ルールメイキングQ&A 先生方のお悩み相談室」

ルールメイキングに関するお悩み①

Q 校則の見直しを行ったら、学校が荒れてしまう
のではないかと不安です…

2020年からルールメイキングに取り組む、
岩手県立大槌高等学校 生徒指導課
熊谷 一郎 先生
に答えいただきます！



Q 校則見直しの取り組みを始める前に、「校則を見直すことで、学校が荒れてしまうのではないかと」という不安感はありませんか？

そうですね。やはり校則自体が緩くなってしまうと、いろんなことが緩んでしまうんじゃないかなという心配は、どの先生も持っていることなのかなと思います。以前は大槌高校でも、校則違反をしている生徒が多数いた時代がありました。一度そうなってしまうと、元に戻すのは非常に労力がいるので、昔に戻ってしまうのではないかと不安は持っていました。

Q 熊谷先生ご自身は、取り組みを始める前は、どういったことを意識して、生徒指導を実践されてきたのでしょうか？

髪型とか服装とかが乱れると、色んなものが乱れてくる。非行にもつながってくるということから、やはり小さな違反は見逃さないということを最も大事に生徒指導していました。やはり生徒指導課長ですから、厳格に指導を行っていました。

Q 当時の生徒たちから、校則を見直したいという要望はあったのですか？

その当時の生徒たちは、疑問に思いつながらも、まあ仕方がないかなと言うことで従っていたのではないかなと。疑問に思う校則やルールがあっても、それを自分たちで変えられるということは、その当時の生徒たちは考えていなかったのではないかなと思います。

Q 校則を見直す取り組みを実際にやってみて、学校全体、生徒たち、先生方には、どのような変化がありましたか？

全体的に、学校の雰囲気明るくなりました。校則もだいぶ変わったのですが、今のところ、それほど危惧するような事は起きておらず、違反する生徒もいない状態です。生徒たちにとっても、自分たちのルールを、自分たちで考える経験をしたことで、大きな成長になったのではないかと考えております。さらに生徒以上に、教員の方が、校則を見直してよかったと思っているんじゃないかなと思います。生徒に対して説明のつかない指導（たとえば「ツブロック禁止」など）をするということがなくなったので、結果的に、生徒との信頼関係も高まったと感じております。

Q 先生ご自身のなかで、意識の変化はありましたか？

「ルールを守る」ということは、ものすごく大事なことだと思うので、そのことについては私自身の考えは今も昔も変わっておりません。学校は、生徒も教員も気持ちよく過ごし、しっかりと勉強できる場であればならないし、そのためにルールやマナーなどが必要なんです。ただそのルールが、果たして適当なものかどうか、社会の実情に合っているものかどうか、ということは常に考えなければならぬと感じています。過度に行き過ぎると、生徒も教員もお互いに苦しくなってしまうという面があるので、そういう所を考えて校則を検討していく必要があると考えています。

Q 先生ご自身のなかで感じている、ルールメイキングに取り組む意味とは、どんなものでしょうか？

生徒と一緒にルールを検討できたという事は、教員生活の中で大きな出来事だったんじゃないかなと思っています。今までは校則を変えろといっても、職員会議のなかで、教員だけで決めていくということをやっていたんですけども、そこに生徒や保護者など、そういう色んな人のいろんな人を交えて考えていくことで、当事者全員が納得できるルールができてくるのではないかなと思います。やはり教員だけで考えると、どうしても「ルールだから守りなさい」という一方的な指導になってしまいます。でも今は「ルールを一緒に考えて、皆で決めて、守っていきましょう」と呼びかけることができます。もちろんルールは大事ですけども、大事なはその「決め方」だと思います。

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える 【活動例】番外編①②の動画を題材に、対話をする

周りの先生と
動画の感想を
シェアする



▼動画教材ダイジェスト 教職員向け動画 番外編② 「ルールメイキングQ&A 先生方のお悩み相談室」

ルールメイキングに関するお悩み②

Q 周りの先生方から、校則を見直すことの理解を得るためには、どうしたらよいのでしょうか？

2021年からルールメイキングに取り組む、
栃木県立足利清風高等学校 生徒指導部長
小瀧 智美 先生
に答えいただきます！



Q先生方の理解を広めていくために、まずどんなことをしましたか？

最初にやったのは有志の先生達をあつめて「興味があったら一緒に校則についてお話ししませんか？」ということで参加を募りました。簡単なワークショップの形式で、いろいろと意見をもらったのですが、**そもそも先生同士で校則について話し合うことが今までなかった**ので、**もっとこういう場を作りたい、意外にも同じ意見を持ってる先生がいることに安心した、と声が多数ありました**。あとは、「制服をなくしてもいいのでは」という意外な意見が出てきたり、この先生はこんなふう考えていたんだという驚きもありましたね。

Q先生同士の対話の場をつくってみて、担当の先生として、プロジェクトを進めやすくなりましたか？

そうですね、**意外と同じ考えの人はいるんだな**と思いました。最初は先生方の中でも、あまり前向きじゃないかなって感じていたんですけど、実際に話してみると、考え方は色々あるなと思いつつ、皆さん興味があるんだというのが分かったので、一緒に取り組めるかなという気がしました。**みんなで対話をしたり、議論ができる場って、おそらく皆さん欲しいと思うんですよ**。ただ先生方は本当に忙しいので、それをやるってなかなか言い出せないのかなと。**校則を見直すこと自体を、真正面から批判したり、否定するような意見は、意外と出なかった**ですね。

Q外部の専門家（弁護士）を招いて、教員向けの研修会を実施されたということですが、実施の背景やねらいとはどんなものだったのでしょうか？

やっぱりうちの校則には人権侵害に関わる校則が結構あるんですよ。にもかかわらず私たち教員が意識が低い、人権に関する意識が低いのではないかなと感じていまして、**まずは弁護士の先生に、人権に関するお話をさせていただいて、そこから校則のあり方を考えたい**なと思ったんですね。具体的に言うと、下着の色の指定とか地毛申請書の提出っていうのは人権に関わる項目なので、やっぱり私たちがしっかりと勉強しなきゃいけないという意識は強かったですね。**研修会の結果「人権侵害にあたる項目に関して見直していく」という方向で合意形成ができたかな**と思うので、**やって良かった**と思っています。どうしても教員だけだと視野が狭くなりますから、外部の方の声を取り入れることによってよりよい校則の見直しに繋げていくことができたと感じています。

Qこの取り組みを実施してみて、先生たちの指導に対する考え方には変化がありましたか？

生徒指導の仕方が変わってきたという実感はまだないのですが、**「そもそも生徒指導ってなんだ」ということを先生たちが考えるようになった、という実感はあります**。これまでルールを守らせるための生徒指導になってしまっていたと思います。ルールを守れないことがダメだとか、それだけを指導している生徒指導になっていたのかなという気がして。この取り組みを通じて、それを見直さないといけないなと感じるようになりました。例えば、そもそも何でこの子はルールを守れないんだ、ルールを守れない生徒たちの背景には何があるんだろうとか、そういうところに目を向けなきゃいけないかなと思っています。だからルールに頼った、校則に頼った生徒指導を変えていきたいと思いますよ、問題提起はできたかなと思っています。

Q周りの先生方から、校則を見直すことの理解を得るためには、どんなことが必要だと思いますか？

ルールメイキングに関わった生徒たちが、「こんなに変わったんだ」「こんなに話ができるようになったんだ」というのが周りの先生方にも見えてきたら、**もっと取り組みへの理解が加速するのかな**と思います。わたし自身、この取り組みを通じて、生徒たちすごく成長しているなって感じるんです。うちの生徒たちは、すごく真面目でいい子なんですけど、自ら何かを発信するとか、自ら何かをやる主体性とか、自主性が足りていないなと感じて。そういう指導を、私たちができてしまったので、そういう生徒に育てしまったんだらうなと反省しているんですが…。年度当初この委員会が始まった時、本当に自分の意見が言えなかったんです。でも、いま活動を始めて半年くらい経ちますけど、わたしたち教員に意見をどんどんぶつけてくるようになったんですね。以前は「どうせ無理じゃん」「先生にいても、どうせ駄目っていわれるから」という反応でしたが、いまは「やってみないとわからない」という意識が変わってきているみたいで。私たちも生徒たちの意見に対して、うーんと一緒に悩んでいる感じです。今までこんな無かったですよ。成長したなって、本当に思います。

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える 【活動例】番外編①②の動画を題材に、対話をする

周りの先生と
動画の感想を
シェアする



▼動画教材ダイジェスト 教職員向け動画 番外編② 「ルールメイキングQ&A 先生方のお悩み相談室」

ルールメイキングに関するお悩み③

Q 学校でこの取り組みを始めてみたいのですが、
どんなことから始めればよいでしょうか？

2021年からルールメイキングに取り組む、
千葉県立姉崎高等学校 生徒会担当
山村 向志 先生
にお答えいただきます！



Qこの学校でプロジェクトが始まったきっかけは、どんなものだったのでしょうか？

そもそものきっかけは、学校に赴任した初日、出会った生徒に「先生、この学校に来て残念ですね」と言われたんですよ。なんで？って聞いたら、「この学校ではすべてが縛られていて楽しくない」って生徒から言われたんです。まず最初にそれを言われたときに、まず「何で縛られているんだろう」と思いましたし、のちに校則が厳しいことが分かったんですけど、自分たち理由もわからないルールで縛られている。そのことによって学校生活に満足できていない子がいる。それを生徒の口から聞いたときに、まずこの状況を何とかしたいなというふうに思い始めたのがきっかけです。そう思っていた矢先、生徒会の主顧問という役職をもらいまして、生徒会の子たちに、「今こういった問題があるけれどどう思っている？」と言ったら、みんながやっぱり不満を持っている。じゃあ、みんなで来年以降、校則を変えていけなとか、という話をしました。

Q生徒たちと山村先生は、どんなことから取り組みを始めたのでしょうか？

まず生徒会の生徒たちが中心になって、みんなが校則に対してどういった思いを持っているのか、本当に不満を持っているのかどうか、現状の認識を調べるところから始めました。具体的には、アンケートフォームで全校生徒に「現状の校則に対してどう思っていますか」と調査してみると、全校の8割以上が現状の校則に対して不満を持っていることがわかり、さらに生徒会や私自身が気付いていなかった校則に対して不満を持っている子がいることもわかって、「じゃあこれも変えていかなきゃいけないね」という発見がありました。私の方では、学年主任の先生とか、生徒指導部長の先生とか、あるいは管理職の先生に、「いまの校則について、どう思っていますか」と考えを聞くところから始めました。学校の先生って、職員会議とか公の場で本音は言いづらいところがあるんですよね。私個人で、「先生、校則って、この校則どう思いますか？」と聞いたりすると、「いや、その校則は今の時代にちょっと合っていないよね」とか、本音が聞けることもあります。私のところでも、そこで「やっぱりこの校則に対して変えたいと思っている人がいるんだ」というふうに確信を得るきっかけになりました。

Q忙しい業務の中で、どういった工夫をしながら取り組みを進めていったのでしょうか？

私も若手なので、なかなか授業とか校務文書とかいろいろなものを掛け持ちしながら取り組んでいて、忙しい面もあるんですけども、まずは自分が日常やっていることで、このルールメイキングにつながることから活動を始めました。例えば、私は社会科の教員なので、授業の中でこういった校則の問題を取り上げたりとかしました。例えば世界史で、そもそもこういった学校教育、いまるような学校教育はいつの時代にできて、なんでこういった風に厳しい指導がされるようになっていったのか、歴史からちょっと見てみようという風にやったりとか。まずやはり日常業務、授業が中心なので、授業とそういったルールメイキングでつなげられる部分を扱ったりしました。また、普段学校で行っているような行事ですね、そこをプロジェクトを関連させて行ったりしました。生徒総会や全校集会の場で、こういったプロジェクトに対しての意見を集めたりとか、プロジェクトを進める上での現状報告をしていました。やはりこういったプロジェクトは、学校全体に関わることなので、どこの学校でも生徒会とか委員会というのもあると思うので、その活動とこういったプロジェクトを関連させて進めることもひとつの手段なのかなと思います。

Qこの取り組みを始めるときに、先生方に意識してほしいことはありますか。

やはり私も、生徒指導がとても厳しい学校に現在いるので、指導を厳しくしている先生の気持ちもわかるんですよ。全部自由にしたら大変なことになっちゃうんじゃないかとか、生徒にルールを作らせたらとんでもない方向になっちゃうんじゃないかって不安な先生もいると思うんですけど、やはりこちらが不安に思っていると生徒は動かないですし、学校に対して不満を持っているままなんですよね。まず私も含めて、他の先生にお願いしたいことは、生徒を本当に心から信頼してあげてほしいということです。やはりこちらが信頼すると生徒は自分から動きますし、こっちが思っている以上に、自分たちでしっかり考えて動ける生徒がほとんどです。たぶんそれはどの学校もそうだと思うんですよ。特に校則が厳しいような学校にいる先生方は、まず生徒を信頼することから、始めていただけたらと思います。

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える

【活動例】 教員コアメンバー 対話ワークショップ

動画教材 入門編②「校則・ルールは“どうせ変わらない”のではなく、“変えていける！”

概要

- 目的：ルールメイキングの「生徒に対する教育目標」と「大切にしたいこと」を言語化する。
- 対象：コアメンバー
- 所要時間：50分

活動例

(時間)
0:05

- 目的・流れの説明 (5分)
- 動画視聴 (5分)
 - ・入門編②「校則・ルールは“どうせ変わらない”ではなく、“変えていける！”」を視聴する

0:10

- 個人ワーク (5分)
 - ・a,bについて付箋に書き出す
 - a.ルールメイキングプロジェクトを通して、生徒の〇〇を育みたい
 - b.進めていく上で、私は〇〇を大切にしたい

0:15

- グループ共有と分類 (20分)
 - ・模造紙を半分で区切る。左：育みたいこと。右：大切にしたいこと
 - ・教員が1人ずつ順番に説明しながら、書いた付箋を模造紙に貼る。
 - ・2人目から模造紙に貼る際、前の人が語ったものと近いものがあれば、その近くに貼るよう心がける。
 - ・一人ひとりの共有が終わったら、全員で分類する。

0:35

- 全体共有・個人のホットチョイス (10分)
 - ・各グループでどのような話し合いが行われたのか模造紙を見せながら共有する。
 - ・各グループの模造紙を見て歩きながら、最も大切だと感じるもの複数に印（チェックや点など）をつけていく。

0:45

- 全体セッション・まとめ (5分)
 - ・4枚の模造紙を全員で眺めながら、熱量がどこにあるのかを確認する。気づいたことや発見があれば、全体に共有する。
 - ・今日の全体の振り返り

0:50

事前準備

- 準備するもの
 - ・動画教材 入門編②「校則・ルールは“どうせ変わらない”ではなく、“変えていける！”
 - ・付箋 ・サインペン ・模造紙
- レイアウト
 - ・4人1組程度で活動ができるように小グループにわけて行う

①周りの先生と一緒に、校則やルールメイキングについて考える

【活動例】教員全体 対話ワークショップ

動画教材 実践編②「ルールメイキングをはじめよう ～そもそもルールとは？～」

概要

- 目的：校則やルールについての理解を深める。
校則やルールについてそれぞれが感じていることを出し合い、見える化する。
- 対象：教員
- 所要時間：60分

活動例

- 目的・流れの説明（5分）
- (時間) 0:05 ■動画視聴（5分）
 - ・実践編②「ルールメイキングをはじめよう～そもそもルールとは？～」を視聴する
- 0:10 ■個人ワーク（5分）
 - ・a,b,cについて付箋に書き出す
現在の校則やルールについて
 - a.大切だと感じているもの（特に残したいもの）
 - b.検討の余地を感じているもの
 - c.新たに作る必要を感じているもの
- 0:15 ■グループ共有と分類（20分）
 - ・模造紙を自由に3つに区切る。
 - ・付箋を1枚ずつ説明しながら模造紙に貼る
 - ・近いものは近くに貼るよう心がける
 - ・付箋を貼り終わったら、全員で分類する
- 0:35 ■個人のホットチョイス（5分）
 - ・特に大切だと感じるものに印（チェックや点など）をつけたり、下線を引いたり、強調させる
- 0:40 ■ギャラリーウォーク（10分）
 - ・1人1本ペンを持ち、全ての模造紙を見て回る
 - ・特に大切だと感じるものに印（チェックや点など）をつけたり、下線を引いたり、強調させる
 - ・全部回ったら、自分のグループに戻る
 - ・個人の振り返り（5分）
 - ※A4白紙を使用
 - (1) A4白紙を自ら2つに区切るように指示する
 - (2) 以下の2つの視点で振り返りを書き出す
 - a.全ての模造紙を見て回って、気づいたこと・発見したことは？
 - b.この時間の全体を通して、気づいたこと・発見したことは？
- 0:50 ■全体共有（5分）
 - ・手挙げの有志で数名に全体共有してもらおう
- 0:55 ■まとめ（5分）
 - ・今日の全体の振り返り
- 0:60

事前準備

- 準備するもの
 - ・動画教材 実践編②「ルールメイキングをはじめよう ～そもそもルールとは？～」
 - ・付箋 ・サインペン ・模造紙
- レイアウト
 - ・4人1組程度で活動ができるように小グループにわけて行う

②保護者の方・地域の方と一緒に、校則やルールメイキングについて考える

6

活動を通じて、保護者・地域の方々にアプローチする。

ルールメイキングにとって、生徒や教員に留まらず、保護者や地域の方々も大切な当事者です。保護者や地域の方々に活動に巻き込み対話することで、よりよい納得解をつくることができます。活動を通じて、保護者や地域の方々にアプローチしてみましょう。

■保護者を巻き込んだ事例

小津中学校では、新ルール案をつくるにあたって、保護者アンケートを行いました。体育祭のタイミングでアンケートのアナウンスを生徒から行い、アンケートへの協力を伝えました。アンケートを生徒自身のiPadを使って実施するという工夫をしました。生徒とその保護者の間で校則についての会話が生まれ、関心が高まることを意図しました。また、生徒と保護者が直接意見交換をするために、PTA総会で対話機会をつくりました。新ルール案について、直接コミュニケーションをとることで、保護者の意見や懸念、活動への期待を知ることができました。同時に活動する生徒の姿を届けることができ、活動への共感をつくることができました。

■地域を巻き込んだ事例

さらに小津中学校では、地域の方々との対話機会として、学校運営協議会との場を設けました。様々な関係者を巻き込み、「校則が知らないうちに変わっていた」ではなく、「みんなで話し合ってみなでつくる」ことで、様々な関係者の協力と理解を持ってルールメイキングを進めることができます。



▲保護者（PTA）との対話



▲地域の方々（学校運営協議会）との対話

③ルールメイキング振り返りチェックリスト

ルールメイキングの活動において意識しておきたいポイントを、各段階ごとに整理したチェックリストです。プロジェクトの過程や、先生と生徒との振り返りの場で、活動のヒントとしてお使いいただけます。



全体を通じて

- 安心安全な雰囲気に対話ができる工夫を行っている。
- 活動について全校生徒に向けて発信していた。(例：掲示板、校内新聞、校内放送、動画など)
- 活動の進捗について(担当教員が)管理職に対して定期的に伝えていた。
- 活動の進捗について(担当教員が)教員全体に対して伝える機会を設けていた。(例：職員会議など)
- 活動の様子について保護者に伝える場を設けた。
- 活動について学校のウェブページ等で発信していた。
- ルールメイキングに取り組む目的や、自分の学校の生徒指導の在り方を教員全体で確認し合う機会を設けた。
- 生徒が定期的に活動や学びを振り返る機会を設けていた。

ルールメイキングの事前準備 (p6-14)

- ルールメイキングに取り組む目的について担当教員同士で考える機会を設けた。
- 活動に参加する生徒同士の自己紹介を行った。
- 活動に参加する生徒一人ひとりの思いや参加動機を共有する時間を作った。
- 活動に伴走する教員の思いを伝えた。
- 活動や話し合いにおいて大切にしたいことを考えた。

ルールメイキングを始めよう！

Step1 ルールの基本認識を形成する (p.16-17)

- ルールや校則とは何か、学ぶ機会を設けた。
- 現在の校則の内容について確認する機会を設けた。(例：生徒手帳に記載された校則の確認)
- 現在の校則の背景や理由について確認する機会を設けた。

Step2 対話の基本認識を形成する (p.18-20)

- 対話とは何かについて、考える機会を設けた。
- 生徒が意見を言いやすくする工夫を行った。(例：教員からの意志表明やグランドルール決めなど)
- 安心安全な雰囲気に対話ができているか振り返る機会を設けた。

Step3 広く検討すべきルールを見つける (p.21-22)

- 見直す校則の候補を生徒たちと話し合いながら挙げた。
- どの校則を見直すかについて、全校生徒から意見を募った。(例：アンケート、目安箱、学級会など)
- どの校則を見直すかについて、教員から意見を聴いた。(例：ヒアリングなど)

Step4 見直したいルールを決める (p23-24)

- 見直す校則を選ぶ基準を複数設定していた。(例：重要性、緊急性、実現可能性、生徒/教員の支持、など)
- 見直す校則を選ぶ基準を生徒と話し合って決定した。
- 見直す校則の選定結果について、全校生徒に発表した。

③ルールメイキング振り返りチェックリスト

ルールメイキングの活動において意識しておきたいポイントを、各段階ごとに整理したチェックリストです。プロジェクトの過程や、先生と生徒との振り返りの場で、活動のヒントとしてお使いいただけます。



ルールメイキングを広げよう！

Step5 調査計画を立てる (p28)

- 校則見直しに向けてどのようなことを調べたいか話し合った。
- どのような人に調査をすべきか話し合った。
- 異なる調査方法（例：アンケート、ヒアリング）の長所・短所について確認した。

Step6 調査を実施して、データをまとめる (p.29-30)

- 全校生徒を対象とした調査を実施した。（例：アンケート、ヒアリング）
- 全校生徒との対話の機会を設けた。（例：学級会、昼休みや放課後を利用した自由参加の会議）
- 教員を対象とした調査を実施した。（例：アンケート、ヒアリング）
- 教員との対話の機会を設けた。
- 生徒・教員以外の方の話を聴く機会や意見をいただく機会を設けた。（例：保護者／地域住民／テーマに関連する専門家や当事者／他校など）
- インターネット等を利用して情報を集めた。

新しいルールを提案しよう！

Step7 解決案（新ルール）をつくる (p33)

- 調査結果について話し合う機会を設けた。
- 新校則について提案の資料をまとめた。（例：提案書、パワーポイント）
- 提案の資料には、新校則の提案だけでなく、背景や根拠となる情報や意見も盛り込まれていた。
- 提案内容について第三者からアドバイスをもらう機会を設けた。（他教員や外部の方など）

Step8 解決案（新ルール）を提案する (p.34-35)

- 提案内容について生徒が管理職や教員に直接発表する場を設けた。

Step9 新ルールの運用に向けて準備をする (p.36)

- 新校則について全校生徒に周知する方法を生徒たちと一緒に考えた。
- 生徒たちが新校則について全校生徒に伝える時間を作った。

Step10 プロジェクトの振り返りをする (p.37-38)

- 新しい校則について生徒たちと振り返る機会を設けた。
- 新しい校則についての検証を行った。（例：アンケート、ヒアリングなど）
- 活動全体を通じての気づきや学びについて生徒が振り返る機会を設けた。
- 活動全体を通じての成果や課題について生徒が振り返る機会を設けた。
- 今後の引継ぎについて生徒と話し合った。



プロジェクトに関わる先生・生徒のなかで定期的に活動の振り返りをするのが大切です

ルールメイキングパートナーになりませんか？

■ルールメイキングパートナーとは？

「ルールメイキング・パートナー制度」はルールメイキングを実践したいと考える教員の皆さまを対象としたものです。

- ・ルールメイキングの実践についてより詳しく知りたい
- ・STEAMライブラリーを閲覧したものの、何から始めたらよいか分からない
- ・生徒、教員の学び合いの場に参加してみたい
- ・学校で校則・ルールを見直すときに、専門家の助言が欲しい

このような声にお応えするための、「校則」をテーマに取り組もうとする学校や教員向けのコミュニティです。

■参加要件

- ・教員同士で校則・ルールについて考える機会を設けた／設けたい教員
- ・生徒と校則・ルールについて考える機会を設けた／設けたい教員

■参加方法

パートナーに参加を希望する場合は、フォームよりご登録ください。



◀ パートナー登録フォーム

1



フォームよりパートナー登録をしてください

2



カタリバより登録完了のお知らせをお送りします

3



教員コミュニティや、相談会のお知らせが定期的に届きます

ルールメイキング教員ガイド

■おわりに

この度は、みんなのルールメイキングプロジェクトの動画教材・教員ガイドをお手に取ってくださり、ありがとうございます。わたしたち認定NPO法人カタリバ「みんなのルールメイキングプロジェクト」事務局では、2019年度より、生徒が主体となり対話的に校則・ルールの見直しに取り組む学校の活動に伴走し、それぞれの現場において必要なサポートを行ってまいりました。近年、ますます全国で校則・ルールの見直しの機運が高まる中、学校現場の先生方からは「どうやって取組を進めていけばよいのかわからない」「なかなか周囲からの理解が得られない」といった、戸惑いや不安の声が多く寄せられました。この教員ガイドは、そういった先生方の悩みに寄り添い、現場で取組を進めるうえでの手がかりとなるような教材をつくりたいという思いから、全国でルールメイキングの実践に取り組む学校現場の皆さま、専門家の皆さまからの知見を集めて制作しました。この教材を活用していただくことで、多くの学校で「自分たちの当たり前を、自分たちで変える」ルールメイキングの取り組みが一層広がっていくことを願っています。ぜひ、STEAMライブラリーのサイトに掲載されている関連の動画教材と併せて、ご活用いただければ幸いです。

■制作

発行：認定特定非営利活動法人カタリバ
経済産業省「未来の教室」STEAMライブラリー

編集協力：古田 雄一（大阪国際大学短期大学部 准教授）

■ 認定特定非営利活動法人カタリバ

どんな環境に生まれ育った10代も、未来を自らつくりだす意欲と創造性を育める社会を目指し、2001年から活動する教育NPOです。高校への出張授業プログラムから始まり、2011年の東日本大震災以降は子どもたちに学びの場と居場所を提供するなど、社会の変化に応じてさまざまな教育活動に取り組んでいます。

<団体概要>

設立：2001年11月1日
代表：代表理事 今村久美
本部所在地：東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F
事業内容：高校生へのキャリア学習・プロジェクト学習プログラム提供（全国）／被災地の放課後学校の運営（宮城県女川町・岩手県大槌町・福島県広野町・熊本県益城町）／災害緊急支援（西日本豪雨、令和元年東日本台風、熊本豪雨）／地域に密着した教育支援（東京都文京区・島根県雲南市・島根県益田市）／困窮世帯の子どもに対する支援（東京都足立区）
URL：<https://www.katariba.or.jp/>

